

区民論議は尽くされたか？

区画整理記念事業「計画案」決定も禍根残す

焦土から水害に強い街の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―一九五〇）の足跡を記念施設として残そうという計画案が一月、説明会や区政会議での意見聴取を経て大阪市戦略会議で決定されました。二月の市議会で予算が採択されれば、弁天町駅前の土地四千㎡と資金四六億円を使い、記念会館（二年度開設）と拠点病院（一九年度開業）を一体で整備するという事業の骨格が確定。このうち記念会館の詳細を来年度一年かけ、区民と区役所が一緒に考えることとなりますが、区民の総意を結集すべき歴史的事業にもかかわらず、僅か一月でその骨格の周知・論議が終えられたことへの区民の戸惑いは大きく、区の将来に禍根を残しました。

病院と会館を一体整備、説明会や区政会議で賛否、築港から医療不安も

港区役所と大阪市都市整備局から提示された「計画案」の前身（①経過②内容③市と区役所

の考え④日程）については前号で紹介しましたが、その説明と意見聴取のための「説明会」と

「区政会議」が一月に開かれたので、まずは、そこでの議論内容を見てみましょう。

第一回説明会(近隣センター)

築港の医療不安続々

交渉過程や切迫日程に批判も



→区画整理記念事業の計画案に対して質疑応答が交わされた第一回説明会(五十七人参加)

Ⅱ 一月十七日午後、港近隣センター(八幡屋)

第一回説明会は一月十七日午後、港近隣セン

ター(八幡屋)で開かれ、区民五十七人が参加。

港区役所からは田端区長、馬場副区長、三原正

画調整担当課長ら、大阪市都市整備局からは丸

山区画整理担当部長、平原拠点開発事業担当課

長らが出席。①計画案の背景②港区役所

の考え方③計画案の内容が三十分ほどで説明された後、約一時間、次のような質疑応答がありました(抜粋:要旨)。

◆記念事業のあらいごと

「大阪都構想で港区がなくなること考えられるが、港区が続くことを前提としてこの計画は進められているのか」→「港区の戦後復興の土台を造った区画整理事業を記念・継承する事業は基礎自治体としての分野と理解している(区長)。

「(まちも)区画整理記念施設は必要なのか」

→「世界に類を見ない大規模な区画整理事業を後世に伝えるために平成四年の終りに市が約束した事業。その責任もあり、ぜひ進めたい(区長、都市整備局)

「(記念施設の)規模が大き過ぎるのではない

か」→「記念事業のために必要な機能を入れる

と、この規模は必要。詳細は区民と区役所がこれから煮詰めていくことになる(都市整備局)

「(公共施設は)メンテナンスが悪く、結局は

陳腐化し、活用されなくなるのではないか」→

「陳腐化はどんな施設でも避けて通れないが、

未長く活用されるよう管理を徹底していきたい」

(都市整備局)「区民センター、老人福祉センター、

子ども子育てセンターの三つの機能を移し、世代

間交流の場として再構築し、区が管理するとい

うのは大阪市では初めての港区独自の取り組み

となる。そういう大きな方向性を提示した。そ

れをどのような事業で具体化するかは今後、区

民と区役所で検討していくことになる(区長)

◆計画案提示までの経過について

「大阪みなと中央病院(築港)が市岡商業高跡

地(弁天)への移転も噂されながら移転できず、

弁天町駅前の区画整理記念事業用地へ移転する

ことになった理由及び経過を」→「同病院は耐

震問題を理由に早急な移転先決定を検討してい

たが、①市岡商業高校跡地は二〇〇〇㎡と大

き過ぎたこと②同地の売却先決定は一般公募に

よることから分割売却での特定事業体との随意契約はできないこと」が主な理由だ(副区長)。

「昨夏に大阪みなと中央病院から区画整理記念事業用地への移転の申し入れがあり、それを区画整理協議会(地権者代表)に示したのは十一月十日。(区民の代表ともいえる)この機関になぜも早く相談しなかったのか」→「いい加減な案は示せないで、面積・容積・事業採算など諸問題の検討や(移転に伴い必要となった隣接地を管轄する)府警・交通局との折衝など(うやむや)にこれだけの時間がかかった。決して水面下で進めたのではない」(区長、副区長)

「十二月十九日の会合で(同病院の転出を含む)計画案を示された築港の町会長らの反応はどうだったのか」→「事業の大きな方向性には理解を示す声や築港から病院がなくなることへの不安の声があったが、計画(案)の骨格に対する否定の意見はなかった。が、(こ)こではまず報告をしたという点であって、これで賛同を得られたとは考えていない」(区長)

「十二月十日午前には区画整理協議会に、午後は(同)地域会(会長会)港区の地域振興会連(同)

←区画整理記念事業の敷地(磯路一・七)。右手前の空き地に大阪みなと中央病院を移転し、左奥の二つの建物(地下鉄弁天町駅舎と変電所)撤去跡に記念会館を建てる予定とされる



会・地域活動協議会・社会福祉協議会の各会長が集まる(に)計画案を示したところだが、(影響の大きさを考えれば)まず築港住民に示すべきではなかったか、築港住民をないがしろにしたので

は」→「この計画案は区主体の問題なので、まず区全体の代表に報告し、その上で各地域の理解を得ていくのが順序。築港住民をないがしろにした(こ)こではない」(副区長)

◆計画案決定への日程について

「二度の説明会と区政会議のあと(一月末までの)十日ほど計画案が決まっています(こ)このか、そのあとの意見で内容を変える(こ)こでは(こ)このか」→「この日程の中で計画案(骨格)への声をいただき、決定後は記念会館の詳細の議論を進めることになる」(副区長)。

「築港から病院がなくなる(こ)こや、区民センターと老人福祉センターと子ども子育てプラザが廃止される(こ)こなど、この計画案には議論すべき重要な問題が幾つも含まれている。計画案は『案』とはいえ骨格であり、骨格で(こ)こ充分な論議が必要だ。にもかかわらず、この一月で決定されるのは余りに切迫した日程だ。なぜ(こ)こになったのか」→「耐震性の問題があるため移転・開業を少しでも早く(こ)こ病院側の希望や、次年度予算が審議される(こ)こ三月の市議会までに(こ)こ市としての案を決定しておかねばならな

いという事情がある」（副区長）

◆築港の病院転出と誘致について

「小川病院（市国）なきあと築港から弁天町駅前へ拠点病院が移るのは区全体としては好ましいが、十一月二十八日に市長に出された移転申し入れ書にある移転希望理由（「南海トラフ大地震による津波被害の際に（現在地では）災害医療協力病院として十分な機能を発揮することができない」）には納得できない（海から多少遠い弁天町駅前に移っても港区内なら災害リスクはほとんど変わらないのではないか）。区長はこれを納得した上で移転に同意されたのか」↓「移転理由は、病院としての考えであり、区役所としては関知していない。病院からの移転の要望に対し（区から拠点病院がなくなるという状況を避けるために）同意した」（区長）

「十二月十九日の地域振興会築港連合町会への説明の中で区長は、大阪みなと中央病院なきあとの築港への総合病院の誘致に言及されたのか」↓「言及していない」（区長）

「観光客も含めて昼間人口は三万人。（総合病院がなくなれば）医療リソースは非常に大きくな

「区内唯一の救急指定総合病院である「大阪みなと中央病院」（築港二丁目）。老朽化による移転の必要から区画整理記念事業用地への移転の申し入れが港区役所に行なわれたという



るので、行政としてきっちり対応してほしい。一方、病院進出の問い合わせがあると、ある市議から聞いたが、事実か」↓「そうした情報は一切聞いていない」（副区長）

「港区への移転を考えている総合病院はないのか」↓「大阪府保健医療計画に定められた基準病床数を、大阪市全体（二次医療圏）では既に超えているので、新たに病院を整備し、病床を増やすことはできない。従って整備が可能なのは市内の私立病院の移転といことになるが、今のところそういう情報は得ていない」（副区長）

「築港には住民だけでなく港湾施設や官公庁が多く観光客も多い。そうした人々の受診機会を担保（保障）できるよう区役所として努力してほしい」↓「観光客と病院の必要性の関係はよく分からないが、築港には水上消防署があり、救急対応の観点からは安心頂いているのではないか。その辺り踏まえて検討していきたい」（区長）

「旧・港湾局職員公舎（築港二丁目）をはじめ病院誘致に適した土地・建物は築港にたくさんある。たとえばより規模が小さくなくても、そうした土地・建物を利用して住民や観光客に対してできる医療施設の誘致を求めたい。計画案の中に築港への病院誘致に努めることの文言（もてん）を盛り込んでほしい」↓「（二次医療圏としての市内の病床数の制約などもあり）区役所として、総合

病院や診療所を誘致することはできない。港区全体での地域包括ケアシステムの構築などを考える中で、医療空白を避けるため、同病院や港区医師会などと連携し、受診機会の確保について検討していきたい」（区長）

◆ 築港の病院跡地について

「計画案には、大阪みなと中央病院の跡地は住宅用地として売却されるとあるが、その根拠は何か。築港住民の意向を踏まえるべきではないか」↓根拠の一つは築港地区の人口減少だ。

平成七～二年に区全体での五・一割減に対して三倍の一四・三割減、十五歳未満は区全体で一八・一割減に対して一倍の二七・二割減。また築港小は「年生を除く全学年が一学級。この四月の入学予定者は十九人。最近二十一年で新規マンションはゼロ。こうした事情を考え、この地域の活性化に役立つよう、区役所としてはファミリーマンションを考えた。が、平成三十一年度までは築港での診療が続くので、今すぐ決めるのではなく、それまでに区民から別の要望があれば検討していきたい」（区長）

←計画案を説明する港区役所・都市整備局の担当者①と、質問・感想・意見を述べる参加者②



他の地域の人には分からないかもしれないが、大変強いものがある。跡地にマンションができて、病院もない所へ誰が来るのか。にもかかわらずこの説明会で『説明はした』と進められるのは納得できない。築港ははたらかしにされたという印象だ。『跡地にマンションを建てるにあたって診療所か病院を入れるとはできないか。加えて救急車の増加や病院船の配置も提案したい』↓「築港には水上消防署があり、救急対応の観点からは安心頂いていると思う。その辺も踏まえて検討していきたい」（区長）

◆ 参加者の感想

終了後、田中から参加した六十代男性は「こ

の計画案はどれも、戦後の港区の区画整理事業の歴史を次世代に伝えるという、記念事業本来の目的から外れているように感じました。その原因となったのは大阪みなと中央病院の移転です。拠点病院を整備するのが悪い訳ではありませんが、それなら、なぜ病院の関係者を説明会に呼ばないのか、不思議でなりません」。

また築港から参加した五十代くらいの女性は「質疑応答で区役所は『次医療圏』にふさわしい市の病床数の制約や、築港には水上消防署があることを強調していましたが、築港地域の実情を踏まえた、もっと柔軟な対応をすべきだと思います。また大阪みなと中央病院は『地域医療機能推進機構』を掲げるのなら、耐震問題を『二』に、採算第一で、急ぎ移転するのではなく、あこのこと築港の医療がどうなるかも考えて動いてほしい」。

また市岡から参加した七十代への男性は「今日は築港からの参加者が多く、色々な問題もあることが分かりました。第二回説明会にも参加して、他の地域の方の声も聴いてみたいと思います」と話していました。

築港に病院誘致の声

関連施設や拙速決定にも疑問



→区画整理記念事業の計画案に対して質疑応答
が交わされた第二回説明会(七十人参加) Ⅱ
一月十九日夜 港区民センター(弁天)

第二回説明会は一月十九日夜、港区民センター(弁天)で開かれ、区民七十人が参加。港区役所と大阪市都市整備局からは第一回と同じ顔ぶれが出席し、第一回と同様の説明が約三十分に行なわれた後、約一時間半、次のような質疑応答がありました(抜粋・要旨)。

◆築港の病院転出と誘致について

「この計画で築港から総合病院がなくなるのは困ったこと。(当事者である)大阪みなと中央病院にも出席してほしいかった」↓「この事業の所管は大阪市と港区なので、今回の出席は考えなかった。」理解を(区長)

「弁天町駅前に拠点病院ができるのは望ましいが、観光客を含む築港の雇用人口の多さなどを考えれば、築港と弁天町の両エリアに拠点病院があつてしかるべき。大阪みなと中央病院が築港から転出した後の病院誘致を重ねて求めたい。そのために区役所は関係先へ働きかけをするとの文言を計画案の中に入れてほしい」私たち弁天町付近の住民は弁天町駅前に病院が来ることを歓迎しているが、築港の人はどうなるのか。病院のない所へ住宅ができて、子育てせ

代が住みたいと思うか」この計画案は築港を無視しているように思える。大阪みなと中央病院にも責任がある」↓「築港への病院誘致の要望を重ねて受け止め、救急体制としては、築港には水上消防署があることなども踏まえ、大阪みなと中央病院や区医師会などと連携して検討していきたい」(区長)↓「築港が救急体制に恵まれているとは何を以て言えるのか。昨夏の水上署からの救急車の搬送回数の非常な多さなどを見れば、決して恵まれているとは言えない。区の危機管理の最高責任者として認識が甘いのでは。もっと事実を直視した検討を願いたい」

◆関連施設について

「再構築のために廃止される区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザの跡地はどうなるか」↓「子ども子育てプラザを廃止した後は、その時点で保育ニーズがあれば、併設の磯路保育所を拡張して受け入れ人数を増やす。老人福祉センターは併設の寮(現住居)と共に廃止して跡地は売却する。区民センターは廃止して売却が原則だが、住宅との合築なので、引き続き住民と協議・検討を行なう」(副区長)

← 区画整理記念事業の周辺図



「公共施設には防災面でも重要な役割がある。三施設を廃止して大丈夫なのか」→「学校施設や津波避難ビルなども含めて総合的な地域防災体制を整えてある」(区長)

「二十数年の紆余曲折を経て計画案をまとめた行政の努力には敬意と感謝を捧げたい。その上で、よき区民に役立ち喜ばれるものにするために質問したい。三施設(区民センター、老人福

祉センター、子ども子育てセンター)の再構築による世代間交流拠点の発想は立派だが、現在そのどれもが役立ち喜ばれている。廃止にあたって関係者(運営者・利用者)の声を聞いたのか。廃止の見直しはできるのか」→「各運営者の声は聞いた。利用者の声は聴いていない。(メリットとデメリットを合わせた)トータルで廃止・再構築を考え、古い施設を維持するのではなく、新たに集約する方が望ましいと考えている」(副区長)「廃止はするがそれぞれのスペースは維持した上で、その中身もより良いものにするため」(今後の(区民と区役所の)論議で検討していくことになる」(区長)

◆ 計画案決定への日程について

「説明会が1回では不十分。もう少しきめ細かくやってほしい。この計画を知らない人が多い」→「二度の説明会や(この後の)区政会議の質疑内容を整理してホームページで知らせるなど、さらに周知を図りたい」(区長)

「この一月下旬に計画案を決定する」というのは余りにも性急なスケジュールだ」→「昨夏に大阪みなど中央病院から申し入れを受け、面積・

容積・事業採算など諸問題の検討や(敷地拡張に伴って必要となった隣接地を管轄する)府警・交通局との折衝などに時間がかかった。その後すぐにHPや広報や説明会で周知を図っているが、病院の早期開業の必要性や一月市議会への



→ 区画整理記念事業の敷地図

区画整理記念事業の配置図



提出期限を考えればぎりぎりの日程であるので「ご理解願いたい」(副区長)

「多くの重要な問題を抱えているにも関わらず、余りに切迫した日程。市民協働は実行だけでなく議論でも必要。決定を半年～一年伸ばした場合は、支障はあるのか。あるようであれば誰にとってのどんな支障か。是直には可能か」→大阪みなと中央病院から移転申し入れを受けてのコミュニケーションに時間がかかっている日程になった。その上で可能な限りの周知に努めているが、港区の地域包括ケアシステムの早期構築

の必要性など、トータルかつ大局的に考えての日程であり、是直にはできない」(区長)

◆ 記念館の区画について

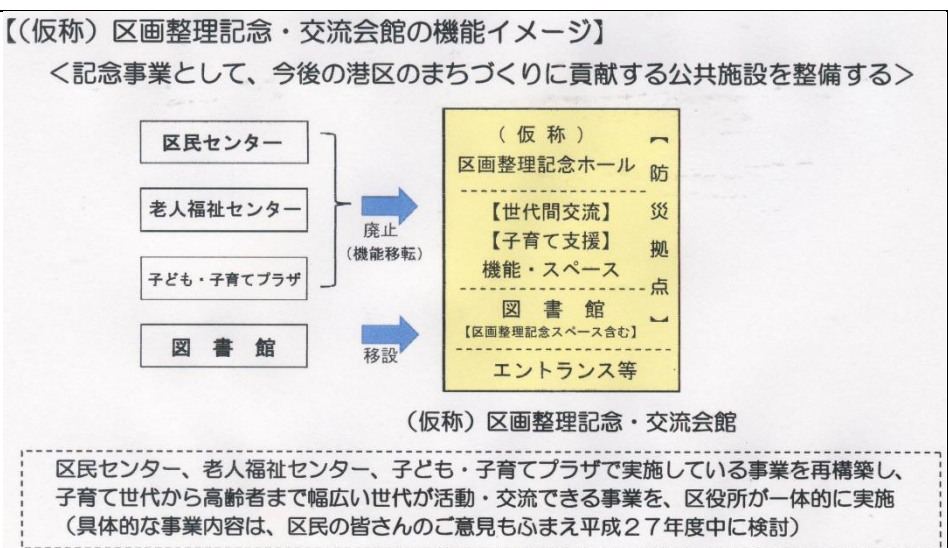
「(記念会館へ行くのに)波除や市国元町からは四三三線がネック。予算を使って四三三線の地下道新設や、地下道にエレベーター設置はできないか。また自転車置き場を十分に」→地下道新設をこの計画の中で予算化するのはできない。エレベーター設置は国交省で整備に向けて設計などの検討を進めている。自転車置き場はできるだけ確保したい」(企画調整担当課長)。

「文化活動をしているが、区民センターなどは記念会館の中に再構築されてから廃止されるのか。文化ホールの規模はどのくらい、多目的に使えるのか」→「区民センターなど三施設は記念会館の中に再構築されてから廃止となる。文化ホールは今の区民センターと同規模で、多目的利用を考えている。その他の詳細は今後の議論で検討される」(副区長)

◆ 参加者の感想

終了後、波除から参加した二十歳の男性は「築港住民の事情が気持ちがよく分かりました。区

役所はその点も踏まえてこの計画を進めよう」と思った。



→ 図4 記念・交流会館の機能イメージ

七十代ぐらいの男性は「井大町駅前」に病院が来るのは、「ワシらは歓迎やけど、築港の人たちの気持ちも分かる。その辺をよつ調整して、丁寧に進めなめかんと思つ」。

また八幡屋から参加した七十代女性は次のように話していました。

「内容よりも性急な日程が気になります。」

この計画は何よりも、戦後四十五年かけた港区の区画整理事業を記念するためのものです。

私も含めた当時の港区民が、地上げによる長期の生活不便や、私有地を公共のために差し出すなど個人的な不利益も顧みず、水害に強い街を造るつと総力を挙げました。規模の壮大さという点でも土木技術の素晴らしさという点でもさらには区民が心一つに取り組んだという精神的な面でも、本当に世界に誇れる歴史だったと振り返っております。

そのことを踏まえての案だとは思いますが、港区の医療や防災の体制を少しでも早く造り上げたいという区長さんらのお気持ちには十分理解できます。が、それよりも、港区民が自分たちの歴史やこの事業の意義を理解し、心を一つに

←計画案について質問・意見を述べる参加者と、回答する副区長ら港区役所の担当者①



して取り組めるようにするこの方がもっと大切ではないでしょうか。

ましてこのたび出されたプランは、これまでの二十数年間の話し合いの流れとは全く違ったところから、つまり病院の申し入れをきっかけに突如として、いわば落下傘のように飛び降りてきた内容です。そのため最初に予定されていた二〇八五mの敷地が一五〇〇mに縮められるという、これまでにない事情も生まれました。

また大阪みなと中央病院なきあの築港地域の医療への不安も強く出されています。さらには、区民センターや老人福祉センターや子ども・子育てプログラムの事業を再構築するためとして

て、これら区民に親しまれ喜ばれてきた施設を全て廃止するという案も含まれています。このことを区民の皆さんはいつ受け止められるでしょうか。

結果としてはこの案に賛同を得られるかもしれませんが、私もこれはこれで、唐突といえ、全体としてはよく考え抜かれた案だと思っています。それだけによけい、都市整備局や区役所が苦勞の末に出されたこの案の周知と論議を丁寧にこなすことの大切さが思われます。

今日の質疑応答でも問われていたことが、日ごろ区長さんが唱えておられる『市民協働』という進め方は、実行段階だけでなく論議段階でも行なわれないと片手落ちになり、むしろ実行段階だけでそれを言うなら、却って押し付けとさえ受け止められ兼ねません。

メリット・デメリットを言うのなら、開設時期や決定を一年先へ伸ばしてでも、充分論議できるメリットの方が断然大きいと思います。

諸事情の板挟みになる区長さんのお苦しみも思いつつも、区民のため、敢えて勇気ある決断を求めたいと思います」

「趣旨から逸れてないか」

根本的疑問残し賛否求める



→ 区画整理記念事業の計画案に対して質疑応答が交わされた港区区政会議(三十委員参加)

11月二十一日夜、港区役所(市岡)

港区区政会議は一月二十一日夜、港区役所(市岡)で開かれ、委員四十九人中三十人が参加。港区役所や都市整備局からは先の説明会と同じ顔ぶれを含む二十数人が出席。武智虎義委員(市岡地域活動協議会会長・港区社会福祉協議会副会長、福祉部会議長を議長に、主な議題である「弁天町駅前土地区画整理記念事業」計画(案)について、①背景(経緯)②港区役所の考え方③内容④区民説明会での質疑応答(概要)が四分ほどで説明されたあと、約一時間半に亘り、主に委員と行政側との間で次のような質疑応答がありました(抜粋・要旨)。

◆ 記念事業そのものについて

「戦後の区画整理事業を記念する」という、この事業の当初の趣旨が、病院移転が入ったためにややこしくなり、敷地面積も二〇八五㎡から一五〇〇㎡に減った。そのついで疑問点が十分議論されない段階では、計画案に反対せざるを得ない」(丹羽豊公委員、副議長、防災・防犯部会) ↓ 二〇八五㎡に記念施設を建設することが元々決まっていた訳ではない。また、面積は減ったが、病院への土地売却費を整備費に充

てることで資金は増えた。事業内容についても、区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザの再構築や図書館移設、病院建設を含めた総合的な案であり、記念事業の当初の目的・性格に合うものと考えている」(区長)

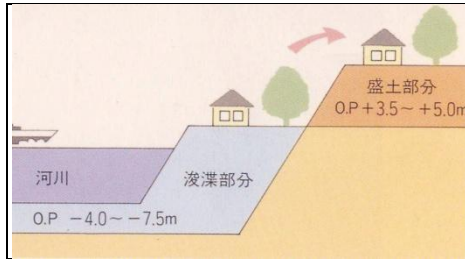
「病院が先にできて交流会館が後にできるとなっているが、一体整備というなら同時開設がベスト。南海トラフ地震などを考えると、設計段階からその方向で連携を図るべきだ」(五十君豊委員、薬剤師会港区支部長、福祉部会) ↓ 「地下鉄を動かしている」変電所を継続移動させながらの移設(新設してから旧施設を解体・撤去)という事情があり、現時点では最大限つめた工期だが、引き続き変電所を所管する交通局とも折衝して、少しでも早く「記念会館を開設できるよう努めたい」(企画調整担当課長)

◆ 記念会館の内容について

「計画案に賛成。鶴見区などにはいつも立派な文化施設ができていくが、記念会館はどんな規模・レベルになるのか」(矢田勉委員、田中地域活動協議会副会長、こども青少年部会) ↓ 「区民センター、老人福祉センター、子ども・

子育てプラザは廃止されるが、今のそれぞれのスペースを確保した上で統合・再構築して区役所が一体的に管理・運営し、図書館はスペースを大幅に増やして移設され、その中に区画整理記念入会スモも設ける。中身は新年度(四月)からの論議で検討していく(区長)

「(記念会館へのアクセスとなる)国道四十三



→全面二メートルの盛土が区の大半で実施され、世界史上でも画期的とされる「港地区復興土地区画整理事業」。写真上はサンドポンプから噴き出される土砂(一九五四年頃)、下図は全面盛土方式のイメージ。いずれも港区役所新庁舎竣工記念誌(一九九八年発行)から

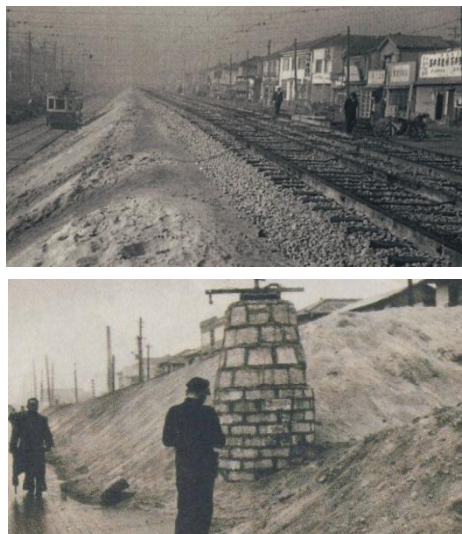
号の地下道にエレベーターを設置することなども含め、会館へはバリアフリーで入れる配慮を(山本芳輝委員、港区地域支援調整チーム「障がい者支援専門部会議長、福祉部会」)「(記念会館へのアクセスとなる)国道四十三号に地下での円形交差点を導入することは難しいか」(大池洋子公募委員、こども青少年部会)→「交差点の地下化には莫大な費用がかかり、この計画では予算化できない。エレベーターの設置については国交省の所管で検討が進んでいる。その他、記念会館の詳細は今後の論議で検討される」(正画調整担当課長)

◆周知の日程について

「第一回説明会に五十七人、第二回に七十人が参加したという」のだが、余りに少ない。もう少し区民の意見を求める期間を設けるべきだった(尾方仁子公募委員、福祉部会)→「二十年以上の紆余曲折(ひづりくせつ)の上に、ようやく提案できる状況になり、協議会に提案し、賛意を得た。そのあとホームページや広報、町会長会議や二度の説明会などを通じて説明し、短期間だができるだけオープンな形で周知を図った」(区長)

「港地区復興土地区画整理事業」の工事風景。

写真上は八幡屋付近の市電軌道の嵩上げの様子(一九五七年頃) 山本安孝氏提供。同下は盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造風景 港区役所新庁舎竣工記念誌から



◆築港の病院転出と誘致について

「区画整理より築港からの病院転出に関心がある。築港住民として大阪などと中央病院がなくなることに驚き、戸惑っている。計画案に反対ではないが、賛成もできない。築港の医療への手立てを考えてほしい」(坪本雄三委員、築港地域活動協議会防犯防炎部会長、防炎・防犯部会)→「同病院からは昨夏に相談があったが、そ

の前から老朽化・耐震の問題があり、移転は避けられない。現在地での建て替えは無理と判断している。聞いていた。港区から総合病院がなくなるのはぜひとも避けたい、「ここなら可能性がある」と考え、提案した。病院がなくなるこの築港の事情については、大阪みなと中央病院や港区医師会とも連携して対策を検討していきたい(副区長)→「異論がある。築港には旧港湾局公舎や税関跡地、旧港湾局庁舎など候補地は一杯ある」(坪本委員)→「同病院が検討された結果、『ぜひこの地(区画整理記念事業用地)』との申し入れがあり、区役所としては、この土地を検討した」(副区長)

「大阪みなと中央病院の患者は七十歳以上の高齢者がほとんど。弁天駅前まで通院できない。加えて災害時に千丹橋^{ちたんばし}が落ちたらどうなるか。計画案に反対しつつのではなく、築港地域の医療の代替案を用意してほしいということだ。また同病院の跡地についても、ただマンションとだけでなく、保育所や産婦人科・小児科を入れるなど、将来の人口増や活性化につながる上手な利用法を考へるべきだ。ピンチはチャンス

←計画案について質問・意見を述べる委員①と回答する田端区長ら区役所担当職員②



でもある」(新田泰司公募委員、防災・防犯部会→回答なし議長が先へ進めた)

◆区政会議としての賛否について

「築港地域の(医療の)心配は良く分るが、移転は大阪みなと中央病院の強い意向。もし区外に転出されたら区全体の痛手になる。港区内に残ってもらうことが不可欠。そういうことも踏まえて、現時点で大筋^{おおすじ}ベストの案ではないが、来年度予算の関係で一月末には方向を示したいとのことなので、ここで区政会議としての方向を打ち出す必要があるのではないか。築港地域への医療補てんの必要などの付帯事項を付けて賛否をとったらどうか。数字が分からないと区

長としても判断しにくいだろう」(大西中朗委員、港区人権啓発推進協議会会長、福祉部会会長)「病院なきあの築港の窮状を考えれば賛成できない。(診療所誘致などで同地域の医療空白を補てんするために努力する旨の)付帯決議を付ければ賛成してもいい」(田村晴美委員、三先地域活動協議会会長、福祉部会)「計画案が出てからこんなに短期間で決着をつけていいものか、疑問だ」(丹羽委員)「私は賛成だが、もし区政会議で反対決議がとられた場合、大阪みなと中央病院が区外へ転出し、『しまった』とならないか。(転出後の築港の医療の穴埋めに努めるという)付帯決議を付けて(区政会議としては賛成という)ことで進めたらどうか」(尾方仁士公募委員、福祉部会)「区の西と東で計画案の(受け止め方が)くっきりと分かれたが、単に賛否を問うのではなく、厳しい議論を重ねることで、区政会議として一段高まったように思う」(藤田あきら市会議員)→「区政会議は行政として区民の意見を聴く場であって、意見の一本化は必要ない。また今日の出席は各条例上の決議に必要な三分の二に達していない。が、計画の骨子への賛否の割

合は知りたい(気持ちもある)。付帯決議を付けるというなら、その面で努力していく(区長) ↓「それでは賛成の方は挙手を」(議長) ↓二十七人が挙手(硬い表情の人が大半、中途半端な挙手も) ↓「反対の方は挙手を」(議長) ↓一人(丹羽委員のみが挙手) ↓「挙手はでさん! (築港への医療の穴埋めに努力するといふ) 付帯決議を付けてくれ!」(もうやー! (新田委員、坪本委員) ↓「分かった。(どちらにも手を挙げなかった人が二人いることを確認した」(議長)

◆ 参加委員の感想

終了後、ある委員は「築港^{かた}の方の不安が強いことに驚きました。計画案主体としては、港区の医療や防災、子育て層や高齢者に対する配慮がバランスよく盛り込まれ、特に反対する理由もないので、(賛否を問われて)手を挙げましたが、こっぴつ^{ちよつ}つ声をきこちり^{ちり}と受け止めて進めていかなければ、せつかく^{せつかく}の案も台無しになると思います」。

また別の委員は「区民への周知も議論もまだ緒に就いたばかりの今の段階で賛否を問われて、確かに戸惑いましたが、港区の医療や防災

← 計画案への賛否の挙手が求められた場面。傍聴者からは「強引で後味が悪かった」の声も



の必要を言われたら反対はできません。長年区民が待っていた事業でもあり、行政にここまでまとめて頂いたら、全体としては前へ進めるしかないのではありませんかと話していました。

◆ 傍聴者の感想

会議を傍聴したある区民は「説明会と同様

(医療不在を不安に思う) 築港の意見が目立ったし、記念事業の性格が病院の移転によって変質したのではないかと、重要な懸念も出され、日程の性急さも指摘されました。こっぴつ^{ちよつ}つ声を十分汲み上げて、骨格議論の期限や事業のオープンを一年先に延ばすのが、それとも病院の都合を優先して予定通り計画案として決めてしまうのか、区長はよく考えて判断してほしい」。

また別の傍聴者は「議論が白熱したのは良いと思いましたが、区政会議は賛否を問う場ではなく、区民や各層の自由な意見を行政に伝える場。参考とはいえ、周知も議論も始まったばかりのこの段階で挙手を求めたのは、議事の進め方として強引で、後味^{あとあじ}の悪さを感じました。こっぴつ^{ちよつ}つた在り方が今後の前例とならぬことを願います。そんな中で、この記念事業の原点(戦後港区の歴史的事業を後世に伝える)から逸^それているのではないかと、根本的な疑問を投げかけ、ただ一人勇気ある反対を貫いた丹羽委員、また築港に関する付帯決議を入れると議長に迫った築港の二委員の態度は立派。雲間^{くも}に陽光^{ひかり}を覗き見た思いでした」と話していました。



戦後の焼け野原から水害に強い街の土台を造り上げた港区の区画整理事業の意義と誇りを次世代へ継承するための記念事業の「計画案」が一定の質疑応答を経て決定されました。大阪市戦略会議（二月二十八日）に出された最終案には、特に築港地域の医療不安を踏まえて「大阪みなと中央病院や港区医師会に働きかけるなど、病院移転後の受診機会の確保に努める」旨が明記されました。この点は、区民の声を誠実に受け止めた田端区長ら行政の真摯な姿勢の表われとして大いに歓迎できるものです。が、全体としては、骨格内容が周知も論議も不十分なまま、一カ月といくく短期間で決められ、市議会での予算審議と区民による詳細のみの論議へと付されたことは、重要案件の進め方として、今後に悪い先例を残したのではないだろうか。そこで、この問題について、これから区民が考えたり行動したりする上でポイントになると思われる内容を示します。

日程 一カ月で案の提示・説明から決定まで進めたのは余りに拙速で、非民主的ではなかつた。

たか、開設時期をずらしても、じつくり区民で骨格論議することを優先すべきではなかつたか。重要案件の進め方として港区の歴史に悪い先例を残したのではないか。

経過 昨夏以降の経過は二十一年間の区民論議を踏まえたものが、大阪みなと中央病院の移転案が、「検討に時間を要した」として、区民を代表する協議会にも伏せられたまま大阪市案の提案に至ったのは区民不在といえないか、こうした進め方が今後の先例となるのではないか。

内容 全体として港区の歴史的事業を後世に伝えるという主目的に合致した内容になっているか。世代間交流子育て支援防災拠点地域医療拠点災害時医療拠点地域包括ケアシステム文化ホール・区史展示・図書館会議室など計画案に示された機能の中に、無駄なもの、また不足なものはないか。区画整理の歴史を後世に伝えるための展示スペースは図書館に併設で良いか、独自に設けるのが良いか。病院と記念会館の面積や配置の割り振りは適切か。

費用 大阪みなと中央病院が買い取る敷地（一〇八五㎡）の代金（十億円）は適切か。事業費

四十八億圓に市の補助はないのか、建設費と運営費のバランスは適切か。運営の中で得られる収益（使用料、入場料など）をどう扱つべきか。

運営 病院は大阪みなと中央病院が運営するとしても、記念会館を区役所が運営するのは適切か、他の方法（区民団体などによる運営、あるいは分割運営）は考えられないか。

論議 四月からの一年間で記念会館の詳細を区民の意見を踏まえて区役所が検討・決定するといつが、検討期間として適切か。検討のための論議はどんな形・頻度で行なわれるべきか、その過程は区民にどう周知されるべきか。

関連施設 大阪みなと中央病院が築港から転出することへの築港住民の医療不安をどう解消すべきか。今、書かれている区民センター、老人福祉センター、子ども子育てプラザの廃止は区民のためになるか、市民財産の民間への売却とコスト削減が主目的ではないか、運営者や利用者は納得するか、施設は残すべきではないか。――以上を目安にした、行政と区民が肚を割つての市民協働の論議が期待されます。

おきこいしゅ!

ここに まことし

小西 正敏さん (六三歳 田中)



区画整理記念事業の骨格

充分な区民論議を求める

「港地区復興土地区画整理事業」の足跡を弁
天町駅前に記念施設として残さうという計画の
骨子が「計画案」として示されたことは一市民

として歓迎できますが、その周知・論議が余り
に不十分なまま決定され、区民の手を離れて市
議会へ送られるよう(一頁)の記事=編集部(こ

は強い懸念を持っています。そこで、この日程
問題を念めて問題と思われる点を以下に列挙し、
今からでも案決定を一年延期して周知・論議に
充てるようを、この場を借りて求めるものです。

一点目は、周知・論議の決定的な不十分さがあ
ります。この案が明らかにされた十一月十日か
ら一月の住民説明会・区政会議までわずか一カ
月。とだけだの区民が論議に加われたでしょう。
戦後港区のまちづくりの歴史を後世に伝え残す
事業の骨格がこれほど短期間の議論で区民の手
を離れ、市議会へ送られてよいのでしょうか。

一点目は、案の自身が事業本来の目的に適
たものかという疑問です。この計画は何よりも
区の区画整理の歴史を伝え残すためのもの。そ
の敷地が当初の四分の三に狭まった上、「医療
拠点」世代間交流拠点についてこれまで議論に
も上りなかつた内容に替わり、肝心の歴史展示
が図書館内の二画に縮小されました。この点に
は充分すぎるほどの周知・論議が必要です。

二点目は、この案の最大のポイントである大
阪みなと中央病院の移転が、区民の代表ともい
えない協議会(地権者代表区にも築港住民にも相談

のないまま突然に打ち出されたことです。今後
この種の問題を扱うに際し、こうしたやり方が
前例とされるのではと懸念せざるを得ません。

四点目は、大阪みなと中央病院が弁天町駅前
へ移転する理由への疑問です。南海トラフ地震
による津波に襲われたら区の八割超が浸水する
との最新予想もあり、築港からわずか三キロの弁
天町で、災害時の医療拠点として現在地以上に
機能するのでしょつか。

五点目は、医療不安を募らせる築港住民への
心配りに欠けていることです。病院誘致を強く
求める声に、最終的には「診療機会」の確保に努
める」との文言が計画案に入りましたが、説明
会などでは総じて消極的な印象を受けました。

以上、私が気付いただけでもこれだけの問題
点があります。「長年の懸案。とにかく先へ」病
院開設は早い方が「の」声も聴かれますが、区民
が充分にこの問題を知り、論議し、心一つに取
り組めるメリットの方が遥かに大きいと考え
ます。区長が口を口にされる「市民協働」は、
実行段階だけでなく、論議段階でも追求されて
いく実を結ぶのではないのでしょうか。

築港に拠点病院存続を

みなと中央病院の移転案うけ集会



→大阪みなと中央病院の移転案を受け「築港に拠点病院は絶対必要や！」と住民が声を挙げた『緊急懇談会』＝十一月十一日、築港高野山

「築港に拠点病院は絶対必要や！」「みんなで声を挙げよう！」。大阪みなと中央病院（旧・大阪船員保険病院、築港二丁目）の移転計画を受けての「緊急懇談会」が十一月十一日午後、同病院に近い築港高野山釈迦院で開かれました。「築港エリアに総合病院の存続を求める会」（山田博之代表）が呼びかけ、築港住民を中心に約五十人が参加しました。

◆耐震問題をテーマに移転計画が

「この中ではまず山田代表が、区画整理記念事業（港区の戦後の区画整理を記念する施設を弁天町駅前建てる事業）の計画が進む中で、災害時や救急時だけでなく日常的にも築港住民の「命の綱」である同病院が、耐震改修問題をテーマに同事業用地への引っ越しを決めるまでの経過を、大要次のように報告しました。

①二〇二三年秋、同病院の前身である大阪船員保険病院（一九五〇年築）が老朽化を理由に市岡商業高校の跡地（弁天二丁目）への移転を計画しているという噂が築港一帯に流れた。

②これを受けて同年十月、天保山第五「一」ボ（築港三丁目）の住民有志で「築港エリアに総合

合病院の存続を求める会」を結成し、同病院の別府院長に「建て替えるは築港で」と求める署名活動を始め、その中で集まった五三筆の要望署名を二四年三月末までに同院長へ提出した。

③その一方で同年四月一日、同病院は「大阪みなと中央病院」（独立行政法人 地域医療機能推進機構グループ）として再スタートした。

④これを受けて同年七月一日、同会は同院長らに面会。院長は「二〇二五年中に耐震診断を実施し、大阪府知事の指示に従う」と答えた。

⑤ところがその頃から同病院は「建物の老朽化が進み、建て替えが必要になった。病院を運営しながら建て替えることはできない。弁天町駅前の区画整理記念事業用地に移りたいが、できない場合は市外への転出も考えないといけない」という相談を港区役所に持ちかけていた。

⑥これを受けて港区役所は、病院側と水面下で話し合いを重ねた末、十一月、合意に至った。

⑦これにより区画整理記念事業の用地は、最初に考えられていた都市整備局用地「二〇八五㎡」に、その西隣の土地を加えた四〇〇〇㎡となり、その上に同病院と記念施設を一体で整備するこ

となった。

⑧また同病院跡地は家族向けマンションないの住宅用地として一般へ売却することになった。

⑨この合意を受けて同年十一月十日、区画整理協議会、次いで合同地域会長会（港区の地域振興会連合会・地域活動協議会・社会福祉協議会の各会長が集合）にこの計画案が示され、賛同が得られた。

⑩これを受けて田端区長は同月十九日、地域振興会築港連合町会（今村末吉会長）の会合を訪れ、同計画案を町会長らに説明したが、後継病院の誘致については言及しなかった。

◆区長と市長の責任で誘致を

次いで山田代表はこのような経緯の中で「築港地域に総合病院・救急病院・災害時拠点病院の三つの機能が消えてなくなるのは絶対に認められない」として、今後の活動方針を大要次のように提起しました。

①築港・海岸通の住民六千人と地域で働く人々、内外の観光客の「命」を守るため、同病院が弁天駅前へ移設される二〇一九年度までに、田端区長と橋下市長の責任で、後継病院を

築港地域へ誘致するよう強力に働きかける。

②港区区政会議の委員や港区選出の市会議員や諸団体にも協力を呼びかける。

③区の説明会に参加したり、区政会議や市議会を傍聴したりして、築港住民の声を届ける。

④そつした運動の進み具合や行政の動向を見ながら運動方針や会の在り方を調整していく。

◆陸の孤島にならないよう

これを受けて参加者と主催者との間で質疑応答が行なわれ、この中で山田代表は次のような考えを表明しました。

①同病院の跡地は住宅用地として家族向けマンションが建設されることになるだろうが、当会の一案として、築港二目の旧・大阪市港灣同職員公舎（八階建て、五十八室、耐震一階はプロテックの売却がまだ保留になっているので、そこへ後継病院（老人保健施設を併設）を持つというよう働きかけた。

②ほかにも築港にはたくさん土地があり、それをどう使つか、どれだけのお金をかけるかは行政（市や区）の問題。住民はとにかく築港が医療面で陸の孤島にならないよう声を高め、

区長にもその気になつてもうよう働きかけることだ。

③移転に反対し、耐震問題があるとしても現地で改修し、この地に残してほしいというのが本音。その思いでこれまで動き、院長も去年の再スタート時に「その方向で頑張ります」と答えたのに、裏切られ、怒り心頭だ。「地域医療機能推進」とは言葉だけなのか。今後はこの強い気持ちでロッキンを広め、築港の各町会長や連合町会長も巻き込んで誘致の流れをつくりたい。

◆「なくなる」と困る住民

終つ後、参加した七十代女性は「昔から船員保険病院にかかってきた。無くなると困る。移転は仕方がないとしても、それまでに代わりの病院をぜひ誘致してほしい」。七十代男性は「昨年、身体の調子が悪くなって地元の医院へ行ったら、きちんと検査した方が良く、どこがいかに問われたので、近への大阪みなと中央病院を頼んだ。なくなるや聞いてびっくりした。残してほしいが、無理ならせめて誘致をしてほしい」と話していました。

みなとサロンの

戦争への暴走、誰が止める！

池島・勝部泰臣 八十一歳

昨年七月、「米国部隊に限って防護します」と閣議決定して国民を驚かせた暴挙も何のその、今国会では「米艦以外の防護も」との法改正を政府が与党に打診している。歯止めが利かぬと識者が憂えた事態が現実になろうとしている。半年も経たぬ間に。この調子だと、どなたもエスカレートして右方向へまっしぐらと憂う。

そういえば、メディアや教育関係に言論統制がじわじわ忍び寄っているのが気味悪い。爆発問題の「政治ネタ」却下しかり、宝田明さんの「反戦の訴え」制止しかり。どちらも公共放送NHKでの話だ。昭和史を読みかじった人なら承知だろうが、あの戦争突入前こそが統制の歴史だった。

十年ほどにわたる首相談話。戦後五十年で村山談話、六十年で小泉談話。今年八月には

恐らく安倍談話。これまで踏襲されてきた内容を見直して「侵略」「植民地支配」の言葉を削除の声も耳にする。今、世界が「和」を目標とねばり危機を感じている中、このように我がリーダーは、かつて迷惑をかけたアジアの国々の感情を逆撫でするようなことを何故しようとするのか。

世の識者、そして国会の野党諸兄弟よ、今の内閣の暴走を止めるべく努力をしてくれ！与党支持者にだって、この「少しかしこ」と思っている人、いるんだぜ。

区画整理記念事業、充分な議論を

市国元町・七十年代元公務員

「区画整理記念事業の計画案出たー」(二月号一頁と、それに関連した山田博さんの「築港にも災害時拠点病院が必要だ」との提言(同八頁)を読んだ感想です。

私たち夫婦は港区に移って十数年で、港区の区画整理事業の実際は知りませんが、貴紙のこれまでの記事(昨年七月、一昨年八月など)を編集部にゆつゝその歴史は学ばせていただきました。

その上で、今回の計画案がよゆやく出たように、まず「よかったな」と思いました。ただ、その上で、これまでの経過や、これからの日程や、さらには山田さんの意見にある、築港地域から総合病院がなくなることへの築港の人たちの不安など色々難しい問題があることを知り、単純には喜べないことも分かりました。

それだけに、最後に「この問題について考えるべきポイント」として書かれている「二月中旬に案の説明から案の決定まで進めるのは余りに拙速かつ非民主的ではないか」という問いかけに行政がしっかりと応えられないと、この際もことも現代的、といつより必要なことではないかと思いました。私たちのような新しい住民も含めて、港区の歴史やこの計画の内容をよく知り、力を合わせて進めていくことが何より大切だと思った次第です。

築港の人も喜べる区画整理事業に

三晃・六十年代 商店主

「区画整理計画」の山田博さんの提言(二月八頁)を読んで、港区の長年の懸念だ

った区画整理記念事業で、こんな深刻な問題が発生したことが分かり、考えさせられました。

港区の戦後の大事業であった区画整理を記念する事業の計画案が出たことは喜ぶべきですが、その一方で、築港の病院が弁天町駅前へ移って来るというのは、私たち三先の人間には便利なことですが、築港からは橋を渡って来なければならず、特にお年寄りや障害者には生死に関わる問題だと思われれます。そんな不安な気持ちを持山田さんは代表して叫ばれたのでしよう。

この声を、この計画を出してきた市役所や区役所は真剣に受け止め、もし病院移転が避けられないのなら、その穴埋めを絶対に講じるべきだと思えます。色んな事情を考えて出された案とは察しますが、そこは頭を柔軟にして、改めるべきは改め、築港の人も含めて港区のみんなが喜べる記念事業にしてほしいと思いました。

庶民にますます冷たい大阪市

田中・六十代女性

久しぶりに市バスに乗ってびっくりしました。乗る継いだための下車しかかると、運転中に「い

「尾崎妃努さん（池島）からの絵手紙



ンボーカードがないと（一回料金で乗り継ぎはできない）と言われ、仕方なく一百円払い乗り継いだバスでまた一百円払いました。去年の四月からこうなったそうです。知らなかったのが悪いといえはそれまでですが、地下鉄・市バスの敬老バス有料化と合わせて、ますます世知辛くなっていることが感じられました。

また、これは友人の七十代女性から聞いた話ですが、地下鉄の駅で知人に連絡しようとして公衆電話を探したが、どこにも見当たらなかったの

人は、情けないやら、腹が立つやら、何とも複雑な気持ちで北大阪急行の駅まで乗り、そこから連絡をとったそうです。この話を聞いた私も本当に腹が立ちました。もうじき地方選挙がありますが、こんな冷たい市政に賛同する議員は絶対に通さんぞーと思いました。

「団結もちぎ」中村揆彦に共感

市岡・四十代 会社員

「生活破壊に倍返しだー 南田岡で団結もちぎ力強く」(二月十一頁)を興味深く読みました。日本全体ではあまり元気がない労働組合が、港区では元氣一杯に活動されていることが分かります。特に「原発再稼働や消費税増税など安全・平和・生活が次々と破壊される中、国民は一体何を楽しみに生き、働き、活動すればいいのか」と訴える中村委員長は、今の社会の特徴をよく捉えられたもので、共感できるものでした。そして、労働組合にも押し寄せている高齢化問題にも触れ、「私もその一人だが、皆の心を力を合わせ、助け合い、励まし合う限り、活動が苦になることはない」といって率直な

言葉も、本当「その通りだと納得できました。さすがに委員長だけあって、よく考えられた挨拶。大切なことを学ばせてもらいました。

美しい故郷ある人（つらやま）

（此花区・七十年代 自筆）

いつもインターネットを通じて読ませて頂いております。『故郷の話（なつ）』（二月）十六頁を読んて。美しい自然と豊かな歴史を持つ福岡県・朝倉町出身の矢野隆己さんがとてもうらやましく思われました。北朝鮮で生まれ、幼いころ終戦で家族と共に引き揚げた私には、祖国である日本に故郷がありません（父母の里は三重県ですが）。町の歴史や名物や観光の案内がでてる矢野さんの気持ちはさぞ嬉しく、また誇り（ちか）いでしょう。筑後川の水を汲み上げて田畑を潤す三連水車や、斉明天皇ゆかりの史跡の数々……古き良き日本を感じさせる、まさに日本ならではの風景です。こんな故郷の景観が、その日本からも、開発とついでにどこかで消えていくのは、本当に寂しい限りです。それだけに、今のつらやまにぜひ、こつとした光景を

記憶（かた）している方が、それを語り残していくことが大切だと思います。このシリーズはこれからもぜひ続けてほしい、メールで失礼とは存じましたが、一言伝えさせて頂きました。次号での矢野さんのお話も楽しみにしております。

頼もしい港区の老人ハワー

（港清・六十代 自筆）

「老人福祉センター作品展」（十一月）に続いて「老人クラブ大会」（二月）十八頁の「区老連カラオケ大会」（同二十八頁）を読み、港区の老人ハワーを改めて頼もしく思いました。特にカラオケ大会の写真や記事からは、ものすごい



→ 辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙

熱気が感じられました。詳しいインタビューを載せられた優勝者・前川輝子さんの『壱坂情話』はぜひ聴いてみたかったです。楽しく元氣の出る記事をありがとうございます。これからも楽しみにしています。

「あさやけ」から世界まで

（三死・ライター）

ネットで、いつも「あさやけ」から読みます。一月号では明治の自由民権運動家・中江兆民（なかえ ちょうみん）の言葉から「時代の汽車にみんな後ろ向きに乘せられている」「運転手も車掌も、管制官もえ行き先が分かっていない」といつ、今も昔も変わらない世界の在り方（ありかた）を迫（せま）る乗せた上で、そんな社会の切り所（きりどころ）となっている「唯物論（ぶつりろん）と進化論（しんかろん）」に疑問を突き付けています。私自身は聖書な（きょうきょう）宗教にはほとんど興味がない人間ですが、確かに今の社会の混乱（こんらん）ぶりを考（かんが）える上、一考すべきことだと思いました。それにしても、いつもながらの文章の流（な）れ。けつこつ長い文面ながら、それこそ「汽車」に乗っているかのようについ、最後まで一気に運んでくれました。

あさやけ

「火薬の発明以来、難攻不落の城塞などはなくなった。つまり、不正や暴力に対するこの世における避難所がもつなくなった訳です。私はいつも心配するのですが、人間は最後に…ずつと手軽に人間を殺し、人民や国民全体を滅ぼしてしまつのではないでしょうか」▼これは、十八世紀フランスの政治学者モンテスキューがその著の中で自らの心情を吐露した件です。賢明な読者は、この中の「火薬」を「核兵器」に置き換えれば現代にもびつたり当てはまることに気がつきやすいでしょう。要するに、知恵と心ある人たちは何百年も前から、それまでにない破壊力を持つ兵器が登場する度に、「いつした世界滅亡への不安を募らせてきたのです」▼この不安はまた、単に兵器に対するものだけでなく、科学の発展を自らの幸福のために使えない人類社会そのものの不安ともてれるでしょう。火薬に続いて、電気、ダイナマイトに、核エネルギーに、人々はその善用による幸福社会への限りに

い希望さえ一時は抱いたものの、それらはいつくも裏切られました。特に最後の核エネルギーに至っては、それこそ知恵と心ある科学者が、その兵器への利用をやめさせようと声を揃えましたが、知恵と心ない政治家は聞き入れず、我が国土・国民に人類史上最悪の破壊と殺戮をもたらしました▼折しも世界ではネットを駆使した犯罪・抗争・戦争が日常茶飯事となり、それが諸分野に活かされることによる悪患よりも、そうした悪用がもたらす物質的・精神的害毒の方が遥かに大きいと言われています。テロ集団に囚われた日本人の解放交渉がネット上でなされた光景は未だ記憶に新しいところ。地球を何度も破壊できる膨大な量の核兵器や、「安全」PRで拡がり続ける原発の危険性と併せ、この科学悪用の脅威は現代に生きる若男女全てに及び、一日のかかりの時間をパソコン前で過ごす筆者など、いつくつした濁流に巻き込まれるか、気が気ではありません▼そして、こうした閉塞状況に確かな解決の道筋を示してくれる科学者・政治家・思想家が不在であることが、その不安を一層深刻なものにしています。

明治・大正・昭和期の文豪・島崎藤村は「私達の不安は…鋭いと思つて言説の多くに接することだけでも、真に私達の心を動かしてくれるような、強い綜合の力に遭遇しないところからくる」『飯倉だより』と洞察しましたが、正にその通りの事態が、知識人溢れる平成の世でも進行しています▼聖書には、地の人の愚かさとその道を歪める「箴言」とあります。つまり、個々の人間も人類総体も、神の意思に沿わぬ限り、部分的・短期的には賢く振る舞えても、全体的・長期的には愚かな歩みをせざるを得ないと断言しているのです。聖書を社会の導きとするかどうかは別にして、これまでの人間と科学の歩みを見る限り、それは「見事なまでに当たっている」言えるのではないのでしょうか▼文明が生から数千年、特に十九世紀以降、唯物論と進化論を土台に加速度的・爆発的な科学発展を遂げた人類は、これから先、自らが産み落としたこの巨大怪物を本当に飼い馴らせるのか、賢人モンテスキューも文人藤村も出会えなかった超熟練の猛獣使いを、総力で探し出さねばならぬ瀬戸際へ来ているように思われます。

若い力を世のために！

港区で七五一人が新成人に



→この溢れるエネルギーを世のため人のため
にと願う。二月十二日、弁天町オーケ広場で
(写真は築港中学校卒業生のグループ)

無限の可能性を秘めた港区の若い力が一堂に

会し、決意も新たにそれぞれの飛翔を始めた。成人の日の一月十一日、港区では七五

一人(男三八六八・女三八五八) 昨年より四八八

増が新たに成人となりました。このうち五九

人男 一九〇人・女 三九八人がホテル大阪ベイ
タワー(弁天)で催された「港区成人の日 記念の
つどい」に参加し、新たな門出を祝福されました。

◆「選挙通して平和の灯を」と選挙委員会

午前十時からの「第一部：記念式典」では国
歌・市歌斉唱に続いて祝辞が贈られました。

この中で主催者を代表して島尾健次実行委員
長(港区選挙管理委員会会長)は「戦後七十年

の日本の平和は議会と選挙制度のお陰。選挙は
一人ひとりが社会に意見を表明する機会。大震

災や長引く不況の中、新成人として生じた義務
と責任を生かし、日本の将来に平和の灯を点し、

若い創造力と積極的な労働で輝く未来を築いて
ほしい」(要旨)と特に選挙権行使を通じての社

会参加に期待を表明しました。

◆「区の歴史ふまえて活躍を」と港区長

同じく主催者を代表して田端尚伸・港区長は

「大正十四年に二十八万といつ大阪市随一の人口を誇った港区は、空襲と高潮で九千人に激減したが、大規模な区画整理事業により、安全で

住みやすい街に生まれ変わった。住民の結びつきも強くなり、住民と行政が力を合わせて街の価値を高めてきた。現在の港区は都市としての

ランドマーク(特徴的な施設)が豊富で、将来性が非常に高い。今後もうつした強みを生かして魅力を高め、一番住みたい街、誇りに思える街を一緒につくりましょう」(要旨)と特に港区の歴史を踏まえての活躍に期待を表明しました。

◆「心の成人」と市会議員

また来賓の藤田あき子市会議員は「法律的に成人することつまり、選挙権など社会参加の権利を行使し、税金がどう使われているか、しっかり政治しているかをチェックすること」を求めたい。同時に心でも成人することつまり、この式典や地域の催しなどを準備してもらっていることに感謝し、地域が自分に何をしてくれるかではなく自分が地域に何をできるかを考えられる人間になることを求めたい」(要旨)と特に心の面での成長に期待を表明しました。

また来賓の藤田あき子市会議員は「法律的に成人することつまり、選挙権など社会参加の権利を行使し、税金がどう使われているか、しっかり政治しているかをチェックすること」を求めたい。同時に心でも成人することつまり、この式典や地域の催しなどを準備してもらっていることに感謝し、地域が自分に何をしてくれるかではなく自分が地域に何をできるかを考えられる人間になることを求めたい」(要旨)と特に心の面での成長に期待を表明しました。

◆「感謝忘れず成長誓つ」と新成人代表

「このあと来賓・主催者紹介と花束贈呈があり、最後に新成人を代表して射場本拓真さんと田頭和さん（共に築港中学校下）が「成人を迎え、大人の仲間入りと共に一人ひとりが自分を振り返り、心に掲げた夢や目標に向かい、一歩一歩進んでいく過程を大切にしながら、成果を挙げ、自分を磨くことで、他人を認め、さらには自分を認められるよう、大人の階段を駆け上っていく。その中で、責任感、行動力、決断力が今まで以上に求められると思うが、共に叱咤



→五一九人の新成人が参加した「港区成人の日記念のつどい」。上は新成人代表への花束贈呈、下は「成人のことば」を述べる射場本拓真さん⑤と田頭和さん⑥（共に築港中学校下）

激励（しんげい）すること、日々精進（しやうじん）し、自分自身を高めていく。これからの人生、たくさんの失敗があり、苦しいこと、辛いことの方が多いと思うが、一つひとつ壁（かべ）を乗り越え、『生涯学習』という言葉の通り、何事も吸収し、自分たちの方向性を見出し、歩んでいく。こうして成人式を迎えられたのは、私たちを育て支えて下さった両親や家族、導いて下さった先生方、温かく見守って下さった地域の方々、そして共に歩んだ仲間たちのお陰。この感謝の気持ちでふるさと港区で育ったという誇り、そして成人としての決意を忘れず、これからの人生を力強く歩んでいくことを誓つ（ちか）（ちか）と「成人のことば」を述べました。冷静で堂々とした口調、爽やかで凛（れい）とした姿勢が印象的でした。

◆「ありがとう」叫んだ港南中卒業生

このあとの「第一部」では平野遥（はのの）さん（港中学校下の総司会会のもと、各中学校出身者が制作した中学時代のスライド上映や恩師の挨拶が次々と登場し、会場を沸かせました。

このうち港南中は佐久間大輝（さくま）さんと佐藤葵（あおい）さんの司会のもと、『ありがとう』（いきものが

「お世話になりました」と恩師に感謝を述べる港南中卒業生⑦と「誇れる人生を」と呼びかけるスライドなどを司会する市岡東中卒業生⑧



がり）をBGMにしたスライドが上映された後、出席者全員が壇上（だんじやう）に上がり、会場の恩師に向かって一人ひとりが「迷惑かけてすみませんでした」「ありがとうございました」「お世話になりました」「ありがとうございました」「お世話になりました」などと感謝の言葉を投げかけ、それに応じて男性恩師一人も登壇、「これからの人生困難に負けず、しっかりと頑張れ」とエールを贈りました。

◆「誇れる人生」叫んだ市岡東中卒業生

市岡東中は平川勝也（ひらかわ）さんと島田明美（しまだ）さんの司会のもと、『キセキ』（GREEN）をBGMにしたスライドを上映。その中で「大きな自

由と共に責任も生じる。いつか振り返った時に
誇れる人生を」とのメッセージが映し出され、
感動を呼びました。また男性一人が壇上に駆け
上がり、今後の人生への決意（聴き取りにくか
ったので内容は不明）を声高く叫びました。

◆「あきらめない人生を」と築港中の恩師

築港中は駒場本拓真さんと田頭和さんの司
会のもとで『大切』（ファンキーモンキー
ベイビーズ）と『Message』（櫻川葵＝
BABYS）と『Message』（櫻川葵＝
同校出身）をBGMにしたスライドを上映。その
中で「先生たちの支えがあつて今日がある。常
に大人を意識して成長していこう」との決意の



→「大人を意識して」と呼びかけるスライドな
どを司会する築港中卒業生①と、恩師のはな
むけの言葉などを司会する市岡中卒業生②

メッセージと共に、男性恩師一人からの「困つ
たクラスもあったが一人ひとりの顔が残ってい
る」「あきらめない人生を」とのはなむけのメッ
セージも映し出され、感銘を誘いました。さら
に卒業生でシンガーソングライターの櫻川
葵さんが紹介され、アカペラで持ち歌『午前
3時の君へ』を熱唱、大きな拍手を浴びました。

◆シンプルにスライド上映した港中卒業生

港中は江川晶さんと平野遥さんの司会の
もと、『明日晴れるかな』（桑田佳祐）をBGM
に、体育祭や修学旅行やクラブ活動の様様を記
録したスライドを淡々と上映。シンプルな進行
ぶりが印象的でした。

◆「精神的成長を」と市岡中の恩師

市岡中は旗手剛志さんと中村紗貴さんの司
会のもと、男性恩師一人が登壇し、「これまでの
身体的成長から、今後は精神的成長を」とめざ
せ「（中学では）君たちは素直な、素敵な学年
だった」「皆が最高に楽しい人生を送ることを願
う。そのために、その土台をしっかりと築い
てほしい」「今日を迎えられたのは誰のお陰かを
よく考え、家の人しっかりと向き合ってください。

「第二部の総合司会と港中コーナーの司会を担
当した平野遥さん①と、自作の『午前3時の
君へ』を熱唱する櫻川葵さん（築港中卒）②



バリバリ働いて思い切り親孝行を」と力強い激
励を贈りました。

どの学校のコーナーでも、懐かしい光景が映
し出されたり、恩師が登場したりする度に拍手
や笑いごとと起こり、会場はさながら壮大な
同窓会の雰囲気でした。



なおこの催しは、港区選挙管理委員会・社会
福祉法人港区社会福祉協議会・一般財団法人大
阪市コミュニティ協会港区支部協議会・港区役
所から成る実行委員会が主催、港区青少年指導
員連絡協議会・港区青少年福祉委員連絡協議会
が協力、区内各種団体・企業が協賛しました。

感謝や目標 率直に

新成人にぶっつけインタビュー

「港区成人の日 記念のついで」の二頁目に参加した新成人に、ぶっつけでインタビューを試みました。どの感想・意見からも、困難の多い世の中でも周囲への感謝を忘れず、自分の個性や得意分野を生かして社会に貢献したいとの意欲が感じられました。

ただ生きていくという感謝

三先 後藤 みはるさん



※みはるさんは脳性まひによる障害を持つため、付き添いのお母さんを通じてインタビューしました。お母さんはこの日のために美しい着物を手づくりし、みはるさんはそれを着て参加しました。〈編集部〉

「成人の日を迎えられて、周囲の色々な支援を受けながら今日まで生きてこられたことに、まず感謝しています。三先小学校を卒業してから西淀川区の特別支援学校の中学部と高等部で六年間学び、今は週に五日、港区内のデイサービスセンターに通っています。急に身体の調子が悪くなったりしてお母さんや周りの人たちに苦勞をかける時もありますが、その一方で、その時々先生や友だちから得られるものは一杯あり、そのどれもが私のかけがえのない宝物です。いま、『サービスセンターでは』『ピーエアート』『ピー玉に絵の具を着けて紙や布の上に転がし、色々な模様を創り出す芸術』を楽しんでいます。とても素敵なので、皆さんにもぜひ見ていただきたいです。それから、家では妹と一緒に遊ぶのが大好きです。これから『明日を生きる』ことを毎日の目標に、色々な方との出会いを楽し

しみながら生きていきたいと思っています」

三先在任、三先小学校→西淀川特別支援学校中学部→向高等部→港区内のデイサービスセンターに通所

中学教師になり教える喜びを

夕風 島田 大輝さん



「この中では出身校である港南中時代の懐かしいスライド上映にグッと来ました。成人になって改めて思ったのは、親孝行できる人間になりたいということです。中学から大学まで部活動で野球を続けてきましたが、特に高校でのランニングなどの厳しい練習に耐え抜いたことは、これからの人生を生きていく上で大きな

自信になっています。中でも高校の野球部顧問から言われた『どんな苦しい状況でも最後まであきらめな』という言葉は深く心に残っています。このように自分に多くのことを教えてくれた野球は、これからも趣味として、地域で草野球をするなどの形で、長く関わっていきたいと思っています。社会問題では食品への異物混入などが気になりますが、そんなトラブルが国としての争いにならずに平和的に解決されることを願っています。そして、格差のない、平等で平和で心豊かな世界になってほしいと心から思います。大学を卒業したらまず公務員になり、小学校の事務職員を手始めに、最終的には中学校の教師になることを目指しています。それは、やはりあの高校の野球部時代に後輩たちに教えて喜ばれ、教える楽しさを味わったことが心に残っているからです。そして教師になる以上は、生徒たちにただ知識を伝えるだけでなく、世のため人のため、また自分のために、心からのやる気を起こさせるような存在になりたいと強く思っています。」

父・祖在佳、田中小学校→港南中学校→大成^{たいせい}

学院大学高等学校→大阪観光大学 回生

× × × ×

多様性受け入れる社会を願う

八幡屋^{ふるかわ} 古川^{けいいち} 敬一さん



「小さいの中では、戦火や自然災害を乗り越えて復興してきた港区の歴史に誇りを持つことが区长さんのあいさつが心に残りました。成人になったという実感は特にありませんが、大人としての責任と義務が生じたことで、身の引き締まる思いがあります。これまでの人生の中では受験、特に高校受験が一番苦しかったですが、これ乗り越えられたのは、一緒に頑張っていた友だちとの励まし合いや先生方の支え、それに家族の協力があつたからです。逆に嬉し

かったのは、そうした努力が報われて高校や大学に合格できたこと。そんな中で役に立ったのは、親父が常に言っていた『目的を遂げようと思えば、道筋を立てて頑張れ』という言葉です。

ただ闇雲^{くらぐら}に動くのではなく、きちんと目標と計画を立てて行動するようにこの意味ですが、これは本当にそうだと思っており、これからもそうして頑張っていくと思っています。今の世界で心配なのは、テロが頻発^{ひんぱつ}するなど社会全体が非常に不安定になっていくこと。もっと皆がゆったりと生きていけるよう、人種や考え方や障害など色んな面での多様性を認め合い、受け入れ合う寛容^{くわんよう}さがが必要です。それにはまた、受け入れられる側の努力も求められるでしょう。そんな中でiPS細胞の開発など科学分野の発展には今後も期待が持て、これから生きる上でとても励みになります。大学卒業後は小学校教師を目指していますが、これには小学時代に出会った先生の影響があります。特に六年の担任だった中西先生(女性)は喜怒哀楽^{きんぐうらく}が激しく、時には涙を流してまで教える導いて下さいました。自分もそのように子供たちと一緒に泣き、笑い、

苦しみながら成長していく教師になれたらと願っています。そしてそんな目標を持ちながら、決して周りに振り回されず、自由に前向きにかたいて「気負い過ぎず、要するに自分というものをしっかり持って、これからの人生を歩んでいきたいと考えています」

（八幡屋生まれ、八幡屋小学校→港中学校→大手前高等学校→福岡県宗像市で一人暮らしをしながら福岡教育大学 回生として勉学中）

喜ばれるネーリストに

福崎 古坂 梓さん



「成人になったという実感は特にありませんが、大人としての自由や権利と共に、それに伴

う義務や責任も生まれることを今日のついでの中で感じ、身が引き締まります。これまでの人生を振り返って一番苦しかったのは学校の授業です。教室の中で長時間、椅子に座っているのはとても苦痛でした。が、そんな学校生活の中でたくさんのお友達に出会え、一緒に遊んだり語り合ったりしたことはとても楽しく、また人間としてもプラスになりました。友だちの中で築港中出身のシンガーソングライター 櫻川葵さんが「悩み事 朝まで付き合おう」「悲しみは分け合おう」「夜になんて負けないで」「どんな時も側にいるから」と呼びかける『午前3時の君へ』にはとても励まされています。今の世の中で心配なのは、中国などの大気汚染。楽しみなのは東京オリンピックの開催です。難しいことはまだ分かりませんが、殺し合いやだまし合い、貧しさや不安のない、誰もが幸せに暮らせる世界になつてほしいと心から願っています。ネーリスト 爪の健康と美容のために着色や装飾を施す職業（ネイル）をしています。その人にぴったりのお仕事ができた時はとてもうれしく、やりがいを感じます。これから

もこの仕事を通じて多くの人に喜びを感じてほしい、そして技術を磨いて、ゆくゆくは海外でも活躍できたいと考えています」

電気技術を極め、次世代へ

磯路 飯塚 尚哉さん



「今日のついでには市岡中時代のスライドが懐かし、当時の先生方の言葉（『人生の土台を築く』『バリバリ働いて親孝行を』など）にも励まされました。十八歳から働いていたので特に成人したという実感はありません。職場（繊維会社の電気保守部門）では、最初は先輩に付

いて仕事していましたが、去年の十月からは一人で持ち場を任せられ、やりがいを感じる反面ミスしたらすべに分かるので、緊張もします。これまで一番苦しかったのは就職活動でしたが、担任の先生がとても親身に動いて下さり、何とか今の会社を受けることができました。逆に一番嬉しかったのは、そうして就職できたこと、そして職場で持ち場を任せられた時です。また、これまでの人生で一番自分のためになったと思うのは、高校時代の色々な経験、それに就活の苦しい時に両親からかけられた『人間、ええ時も悪い時もあるけど、それに耐えて頑張れるかどうかで人生が決まるんや！』という言葉です。苦しい時はいつもこの言葉を励みにしています。今の世界で気になるのはイスラム国の台頭やテロの横行。日本もいつ標的になるか、心配です。逆に楽しみなのは東京五輪。世界の色々な人と交流できると思うとワクワクします。激しい競争社会ですが、みんなが高め合う、よい意味での競い合いはどんどんしたらいいと思います。蹴落とし合ったり戦争に発展したりする競争は絶対に避けてほしいです。これから

の展望としては、今の持ち場をしっかりとこなして信頼を勝ち取り、任される持ち場を数力所に広げると共に、さらに技術を磨き、極め、教える立場になって、後輩に、次世代に、技術を継承したい。そして、それが果たせれば、あとはゆつくり世界旅行でもしたい、なんて考えています。要するに、歳をとってから『ああ、ええ人生やったなあ』と振り返れるような、そんな充実した生き方ができたらと思っています」

（磯路生まれ、磯路小学校→市岡中学校→都島工業高等学校校電気科→京都府宇治市の繊維会社の寮に住み込み、電気保守部門を担当）

**残したの
子や孫たちに
我が人生！**

お話をききとり、冊子
にしてお渡します。

父が興した会社を継ぎましたが、
強気の経営が裏目に出てバブルの
最中に倒産。ガードマンなどしな
がら再起を誓い、15年前に別業種
ながら起業。苦い経験を糧に、今
は順調な経営が続いています。そ
んな半生を子や孫に残したいと、
冊子にしてみました。（60代男性）

40字（原稿用紙1枚）で
千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●「ワークみなと」「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕凪一・六・三、☎六五七二・七五二一）。

●ムチ打ち（首・腰）無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。一月二十日（日）十時十八時に行政書士のむら事務所（築港二・七・一・六〇〇）で。一人約一時間。事前予約制。電話かEメールで。「どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール info@jikkoo110-nomura

ra.com、TEL 六五七六・六〇七八、FAX 六五七六・六〇七九。

●緑の地球ネットワーク(GEN) 中国山西

省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている「写真の下」はイメージ。次のような協力方法がある。

①会員になる「年会費一万 千円」②会報を購読する「年間 千円」③カンパする「税制上の優遇措置あり」④絵はがき『黄土高原の花』を購入する「八枚組 三百円」⑤「アオ『よみがえる森』」を購入する「二十分五千円」⑥換金できる物を送る「古切手・書き損じはがき・外国「コイン・商品券など」⑦ボランティアになる「会報発送など」⑧黄土高原ワーキングツアーに参加する「黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。四月十一～十七日。一般十八万七千円、学生割引三万円。申込期限三月四日」⑨DVD『黄色い大地に広がる緑々草の根環境協力の二十年』を観る「緑化協力二十周年を記念して制作。約三十分。無料」⑩各種イベントに参加する「GE

N 自然と親しむ会「有馬富士公園ハイキング」(二月二十八日(土)十時十五時頃、登山や野鳥・民家観察)「渡し船で巡る大阪港とサクラ」(四月四日(土)十時十五時頃、天保山や渡船で散策)▽詳細は GEN 事務所(市岡一・四・四・五階、六五七六・六二八一、FAX 六五七六・六二八一、Eメール gentree@s4.dion.ne.jp、http://homepages3.nifty.com/gentree/へ。



●日本クリニクラウン協会 入院生活を送る

子どもたちを定期訪問し、遊びとユーモアを届け、笑顔を育む臨床道化師「クリニクラウン」の活動を普及・推進する特定非営利活動法人。〇五年から港区を拠点に全国で活動。一三年度は

三四病院を三六〇回訪問、約八千人の子供と関わった「写真(上)の下」は活動イメージ▽一四年にはクリニクラウンが一人増え十八名に▽二〇一五年は十周年記念事業でクリニクラウンオンライン財団へ研修▽支援の方法「寄付する」「会員になる」「マンスリー(ひと月単位の)サポートになる」「関連イベントに参加する」他▽いずれも詳細や申込は同協会(築港二・七・五港振興ビル305A TEL・FAX 六五七五・五五九一 Eメール info@clinicalowns.jp ホームページ http://www.clinicowns.jp/へ。

借金・相続・遺言
で悩んでいませんか?!

★1人で苦しまず、まずはお電話を
★他に債権回収などの相談も承ります
(司法書士法第3条の範囲に限ります)
★秘密厳守! ★土日でも対応OK!
★女性司法書士も在籍、お気軽に!

牧田・権藤合同法律事務所
港区南市岡1-6-3 ユタカビル2F
☎6586-6762
URL:makita-gondou.com

鯉節業界の発展に尽くす

大鯉 山中政男さんに旭日双光章



→ 鯉節業界への多大な貢献に対して旭日双光章が贈られた山中政男さん④(左は長男で社長の政彦さん、右は山中さんを支える女子社員)

港区の企業人に秋の叙勲。鯉節業界の発展に尽くした元(社)日本鯉節協会会長・山中政男さん(田中丁白の大鯉(株)顧問、七十四歳)に昨年十一月三日、農林水産省から旭日双光章が授与されました。

旭日双光章は日本の勲章の一つで、産業振興や福祉推進などに秀でた人を政府が表彰する旭日章(全八段階)の五番目に位置し、全国や都道府県を活動エリアとする団体の長や役員などに贈られます。

◆ 鯉節一筋に歩んだ人生

山中政男さんは一九四〇年七月、鯉節問屋「山中商店」を営んでいた父・政七さんと母・れいさんの長男として大阪市西区京町堀に生まれました。太平洋戦争中は愛知県に疎開。戦後は兵庫県芦屋市の幼稚園、小学校に学んだ後、私立校の名門、灘中学校、灘高等学校から関西学院大学に進学。一九六三年、東京の老舗鯉節問屋で修業を積んだ後、父の経営する大鯉(株)(西区靱本町)に入社しました。

経営環境が高度成長から石油ショックなどを経て次第に低迷していく中、業務の第一線に立

ち続け、一九九〇年には将来をにらんで社屋を港区田中に移転。その一年後から社長として、二〇〇五年からは会長として経営を舵とり。同社を業界トップクラスの在庫量と搬送力を誇る鯉節問屋に発展させました。

またこの間、一九七八年には全国鯉節類青年連絡協議会会長、二〇〇一年には大阪鯉節類商工業協同組合理事長、二〇〇二年には(社)日本鯉節協会会長に就任。中小企業は助け合わなければと業界発展にも力を注いできました。

こうした功績が認められて二〇〇三年には黄綬褒章(社会・公共・文化などに尽くした人に内閣府から贈られる褒章の一つ)を受章しています。

現在、居住地の芦屋市から港区の同社に通い、長男で五代目社長・政彦さんらの仕事を、顧問として後方から支えています。

そこで一月、大鯉(株)の社屋に山中政男さんを訪ね、受章にまつわる思いを訊きました。

◆ まずは今回の受章、港区民として大変嬉しく、また誇りに思っていますが、「自分ではい

入社以来、九州など全国各地の生産地では鯉節のイロハから教わり、父を始めとする会社の先輩からは経営のノウハウを叩き込まれ、取引先など業界の方々からは苦しい時にも変わることもなく支えて頂き、さらにこの港区に移ってからは近隣の皆様から温かい協力を頂いた、そんなこれまでの全ての人々との出会いがあつてこの受賞だと受け止めています。

また一昨年、「和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、その中で重要な位置を占める鯉節の価値が世界的にも認知された中での受賞という点でも、非常に感慨深いものがあります。

◆なるほど。個人的な喜びと共に、業界や地域、また日本の食文化という大きな枠の中でこの受賞を受け止められていることに深い敬意を表します。ではその日本の食や鯉節業界の現状をどのように見ておられますか？

「存続の危機」、鯉節問屋を取り巻く環境は決して明るくありません。水産資源が減る一方で、世界的には魚食が拡大して鯉などの原魚不足が起きています。加えて和食離れや外食企業

←山中政男さんが顧問を務める大鯉棟(上)と、鯉節を子供たちに提供する同社の取り組み(下)



の変化があります。そんな中で手を拱(こまぬ)いていたら問屋は時代に置き去りにされ兼ねません。

◆そんな中で何を追求されてきましたか？

品質重視の丁寧・迅速な販売という鯉節問屋の原点を守り抜くことは勿論ですが、それに留まらず、洋食化の中で忘れられつつある和食の良さ、とりわけ鯉節の奥深い味わいを知ってもらう取り組み、つまり若い世代を中心とした新しい市場の創造です。そのため我が社では今、近所の子供たちに削りたての鯉節を家に帰って帰ってもらうなどのPR活動を積極的にこなしています。そのような活動はすべて販売に結びつくようなものではあませんが、長い目で見れば、必ず日本の食文化を甦(よみがえ)らせ、引いてはこの業界の明るい将来に繋がると信じています。

◆日本の食文化の復興という大きな立場に立った経営姿勢の継承に深い共感を覚えます。では最後に、今回の受賞に至る、これまでの人生を振り返って特に思われることがあれば――

丁稚奉公から出発し、戦後は焼け跡の瓦礫(がれき)から苦労して社の土台を築いた父の存在は、とても大きく、その父を、自分がまだ四十二の時に亡くしたのは大きな痛手でした。が、その厳しい時期に社内外の多くの人たちが親身に支えてくれました。自分の人生は、いわば、そんな人たちが担いでくれる神輿(みこし)に乗った、非常に恵まれた人生だったと振り返っています。

その上で、もはや、業界でも社内でも、第一線に立つ歳ではなく、おるだけで安心(笑)と言われる程度の存在ですが、求められれば、これまで培ったものを引き出して、多少なりとも若手育成などに手助けができればいいなと思っています。

◆ぜひその方向で末長く活躍されることを期待します。本日はありがとうございます。

故郷の話をしよう

福岡県・朝倉町出身

やの たかき

矢野 隆己さん（八幡屋） ㊤



→矢野隆己さんが大福小学校五年生の時のクラス写真から（二列目中央の学生帽が矢野さん）

「遠く日の夢の数々 僕は知りたい 君の故郷 故郷の話をしよう」（昭和四十年北原謙一『ふるさとはなををしよう』）。慌ただしい都会生活の中で、まだ見ぬ土地に思いを馳せるのは、時空間旅行にも似た快感です。そこで幼少期・青年期の悲喜交々を綴りまげながら、皆で故郷の話をししよう。

先月から、八幡屋二丁目でパソコントラブルの相談・解決を主業務とする矢野システム研究所を営む矢野隆己さん（七二）に、生まれ育った福岡県朝倉町について語って頂いています。前号では朝倉町の歴史や風物を詳しく教えてもらった上で、大らかな奮闘気の幼少期のエピソードにも触れて頂きましたが、さて今回は。

◆ 役に乗って遊ぶなど、都会育ちには考えられない豊かな自然とのふれあいが幼少期にあったんですね。次に小学校時代の思い出を――

父親の仕事（食糧事務所）に勤務の関係で、物心つかない頃から福岡市内で小学校 年生まで過ごしました。終戦後間もない頃だったため、博多の町は闇市などがたくさんあり、きれいで

はありませんでした。風呂屋のお湯も、水が少ないためか、きたなかったです。小学校では田舎と違って子供が溢れ返り、一年生は午前、一年生は午後と分けて授業が行われ、教室不足を補っていました。そんな中で田舎育ちの私は千歯掻きなどの農機具の絵をすらすらと描いて、都会の子供たちをびっくりさせたものでした。

一年生の時、家業の精米所を継ぐため父は家族を連れて実家へ戻りました。当時、福岡から約五十キの道は舗装されておらず、トラックの上で激しく揺られ続けたのを覚えています。

町に二つある小学校の一つ、大福小学校までは家から一キほどあり、下駄で通いました。一学年に四十人ほどの学級が三つほどあり、全体では数百人から千人ほど在籍したので、わりと活気がありましたが、再びの田舎での生活は、それまでの都会での分秒単位のサイクルが週単位に変わったように感じるほど、実にのんびりしたものでした。

この頃の記憶に残っているといえば、「見渡す限りの田んぼは我が家の物だった」といっほどの大地主であった祖父が、農地改革でその大半

を失ったものの、やがてはそれらが戻ってくる
と信じ、返還を求めて何度も役所へ陳情に出
向いていたのですが、それに私も連れて行って
もらったことくらいです。ところが八年生の時
村史に残る大きな事件が続きました。

◆ ほう、それはなんぞ？

一つは一九五三(昭和二十八)年六月の下旬、
一時間に「二百」という猛烈な雨がひと晩続いた
ことで筑後川が氾濫したことです。めばしい建
物が何もない土地だけに、外から見た限りでは、
文字通り、村じゅうが「水の底」でした。

幸い私の家だけがどついつわけか水に浸から
ず、被害にあった村の人たち五十人ほどが逃げ
込んできました。そして水が引くまでの約一週
間、二百畳ほどの家もあつた我が家のあちこちに
各家族が散らばり、菜種油で灯を点け、それぞ
れが持ち込んだ食糧で自炊しながら共同生活を
続けたのです。その間、水が引くにつれて現わ
れる各家の藁屋根の上から、互いに手を振り合
う光景が見られるなど、不思議と村(当時は大福
村)の空気に悲しさは感じられませんでした。

結局、一人の死者も出ずに村は生き返った

←小学六年生だった一九五三年六月、一時間に
二百リもの豪雨が一晚つづいて筑後川が氾濫
し、村(当時は大福村)を襲った



のですが、長きに聞くと、「ここあたりは五
十年に一回くらいこんな水害があるよ」とい
と。その後、一カ月ほどは電気も通りませんで
したが、みんな慣れたもので、ちょっと不便な
だけで生活はちゃんと続きました。

◆ 災害に負けない、村の人たちのたくましさ
を感じます。もう一つの事件については、

その水害の記憶もさめやうな七月、今度は夏
休み中の小学校が燃えてしまったのです。原因
は今も分かっていませんが、木造校舎だけに見
事な完全燃焼(笑)でした。一学期になり、生徒
たちは村じゅうの神社やお寺や公民館に分かれ
て授業を受けました。ちょうど江戸時代の寺子
屋のような雰囲気、食べるために皆で「フト
リ」を育てるなど、けっこう楽しい思い出が残っ
ています。卒業式は、まだ片付いていない運動
場で行なわれました。

◆ やはり困難に負けない村の子供らのたく
ましさを感じます。次に中学時代の思い出を

最初に村の歴史をお話したように、この中
学時代に私たち的大福村は他の一村と合併して
朝倉村となりました。その村の唯一の中学校、
比良松中学校までは四キロほどあり、やはり下駄
で通いました。私は遅刻の常習犯で、通学路で
は同じく「遅刻タイプ」の女の子(ぼっちゃり
型)でしたと付かず離れず、互いに異性を意識し
ながら黙々と歩いたものでした。(つづ)

気迫の動きで魅了

新年の三社神社で武道奉納



→港区発展などを願って各種演武が奉納された「神道夢想流杖道演武会」二月十日、三社神社（写真は神道夢想流杖道・基本形の演武）

気迫溢れる掛け声と動きに境内が凜と張りつめました。新年恒例の「神道夢想流杖道演武会」が二月十日午後、三社神社（磯路）で開かれました。波除在住の佐藤政子さん（歌手・藤かほりさん）が師範を務める「神道夢想流杖道并天道場」（小山悟館長の主催で九回目。区民の安全と健康、港区の発展などを願って道場生ら二十数人が様々な種類の演武を奉納しました）。

◆短杖・居合・十手・鎖鎌など次々と

演武に先立って本殿でお祓いを受けた演武者たちは、凜々しい紺や白の道着姿で登場し、本殿に一礼。神道夢想流杖道・基本形の集団演武を皮切りに、内田流短杖術、神道夢想流古流・表、神道夢想流制定、霞神道流剣術、英信流居合術、一角流十手術、神道夢想流古流・五月雨、神道夢想流古流・中段、神道夢想流古流・影、一心流鎖鎌術、全日本剣道連盟杖道などを次々と披露しました。

きりりと冷えた空気の中、礼に始まり礼に終わる二連の所作、流麗かつ俊敏な動き、「エイ」「オウ」「トア」「ハア」などの力強い掛け声、相手から瞬時にも外さぬ鋭い視線、男性の

→内田流短杖術を披露する佐藤政子師範（上）と神道夢想流・制定を披露する今村昭彦さん（下）



迫力と女性の切れ、また鎖鎌や十手を使つての時代劇さながらの立ち合い、さらには真剣が空気を裂く際の緊迫感。見物の数千人は司会者の簡潔な説明にも耳を傾けながら「見事やなあ」「気が引き締まるなあ」と盛んに拍手を送っていました。

◆「理にかなった動き」と道場生

終了後、道場生に訊きました。杖道の基本形や制定形を披露して拍手を浴びていた北野友之さん（二九）＝箕面市在住＝は大阪市内の化学メーカーの研究部門に働く会社員。学生時代に打ち込んでいた合気道に杖を使う術もあったことから、杖だけを扱う杖道にも興味を廣

「神道夢想流剣術を披露する小山悟館長①」と神道夢想流古流 表を披露する帯谷人史さん②



ば、インターネットで弁天道場を探し当て、二〇三年四月から稽古に通っているそうです。

「無暗に体を動かすのではなく、重心の移動を意識し、いかに少ない力で相手を制するかが合気道にも通じる技を身に付けていけるのが楽しいです。基本形は一応マスターしましたが、応用形はこれから。形を覚えても、きちっと決め切るころまで達するのが難しいですね。職場では神経を使うので、いつて皆さう一緒には体を動かすのが気分転換になる一方、理に適った無駄のない杖道の動きは、理論的に頭を働かせなければならぬ仕事にも役立っています。これからも趣味として楽しく続けていきたい」と

思っています」と話していました。

◆「人思いやる心で精進」と佐藤師範

また、無事に奉納を終えた佐藤師範は「区民の皆様が今年一年、安全・安心・健康に過ごされますように念じて奉納させて頂き、嬉しく光栄に思っています。練習生は全国大会出場などそれぞれの目標を持ち、各種武道もとり入れて稽古に励んできましたが、これからも弁天道場の名に誇りを持ち、人を傷つけず、人思いやる心を持って精進して参りたいと心新たにしています」と話していました。

◆四百年の伝統、理想のエアロビクス



→英信流居合術を披露する谷川良二さん①と一角流十手術を披露する黒川徳子さん②

「神道夢想流古流・表を披露する小柳舞美さん①」と一心流鎖鎌術を披露する広瀬和子さん②



持つ神道夢想流杖術を母体として発展・普及した武道で、杖と呼ばれる長さ約一二ハメいの丸木の棒を自在に操ることで剣・槍・薙刀などの長所を採り入れた多彩な展開が可能。その技は一百を超え、全てマフターするには十五二十年を要するとされています。また「杖一本で身を守る護身術」左右を均等に使う理想的な日本古来のエアロビクス「気の効用による心身統一法」としても近年人気を高めています。

なお、同道場は毎週水・土曜日の十八時半～二十時半に市国元町三・二・一六（三和住建内）で稽古。問い合わせは☎六五八三・一五四四 小山館長まで。

おじやましまるす

居合道『水月会』

①



→ 森喬会長(右端)の人間性にも惹かれて修練を重ねる『水月会』の皆さん(写真は稽古の後の訓示) 十一月十九日夜、弁天小学校講堂で

会長の人間性に惹かれ

目標もち修練重ねる会員たち

居ながらにして敵と相対する「居合道」。その一流派である「無双直伝英信流」を追求して弁天小や市岡中で修練を重ねる『水月会』。例会終了後、信頼と尊敬を集める最高指導者・森喬会長(八八)への思いや居合道について、会員に訊いてみました。

◆ スケールの指導

同会長は一九八八年生まれ。八五年に八段、九四年に範士(二階級の最高位)となり、〇五年には全日本剣道連盟から剣道功労賞を受賞。現在、同連盟の常任委員であり、居合道部の師範や各種大会の審査員を務めています。会員の間では、その指導について「いま言わずスケールが大きい」「腰を使うことや流れを重視することなど、ポイントを押さえて分かりやすい」「高段者にもズバツと指摘する一方で初心者には非常に優しい」「よそのグループにも分け隔てなく教え、常に大阪全体のレベルアップ

プを心にかけている」などの声が共通して聴かれる一方、その生活ぶりに対しても「食事は自ら作られ、自宅練習場で毎日鍛錬に励み、一日一冊の本を読み、住所地・大正区での地域活動にも熱心である」などの声が上がっています。

そこで、その森会長の人間性や思想や技を受け継がんと日々修練に励む会員に、居合道への思いを尋ねました。

◆ 心・技・体の一体化を追求

その一人で女性のFさんは西宮市から車で通っています。入会の動機は「袴姿にあって笑う」。その少し前から居合道をやっていたので「別の武道もやってみたい」という気持ちもあったそうです。十一年後の現在、四段まで昇進しました。

難しいのは「いままで行っても完成しないところ」。そこを出来るようになっていこうが「また楽しくもあります」とも。技術的には「相手に対して間を持ちながら斬り込んでいく」ただ手足を動かすのではなく、身体全体で斬るというレベルまで到達するのが非常に難しいと感じています。「心・技・体を一つにといわれますが、

↑「心・技体の一体化」を追求する入会十一年のFさん(四段^上)と、「大会での初受賞」をめざす入会十四年の谷川良二(五段^下)



「これは修練の積み重ねしかありませんね」。

々々でも稽古は裸足で、気が張っているせいか、風邪を引かず、「丈夫になった」「身体ができてきた」と実感。また大会などで「見られる緊張感」の中、「それに耐えられた時の嬉しさ」も味わえるようになりました。

「これからの夢はと問うと、「海外の人たちに居合道という日本伝統の世界を教えてあげたい」。

きりの引き締まった容貌の中、瞳がきらりと光りました。

◆大会での賞を励みに

生涯学習ルームの舞台発表を観て「これなら

歳をとってからでもできるやろ」と始めたのは谷川良二さん(公三)^上＝南市岡在住。十四年続けて、現在は五段です。

居合の効能を尋ねると、「技の土台となる正しい姿勢を絶えず指導されることによって」「長年の猫背が直りました」と一笑。また昇段試験などでたくさんさんの厳しい視線を浴びることで「精神的に鍛えられた」とも感じています。技術的にはやはり「腰を使うこと」が難関とが、「手打ちでは力が走りませんからね」。

大きな目標はありませんが、「とりあえずは大会で一つ賞をいただくこと。折々に開かれる色々な大会が稽古の励みになっています」。そして、そういったことを積み重ねる中で「その先に何か見えてくるかもしれない」とも。柔和な表情の中で一瞬、視線が遠くを見据えたように思われました。

◆勝ち負けでない世界に魅力

練士六段として教える立場にもあるのは林崎晴夫さん(七二)^上＝吹田市在住。職場(旧・電電公社＝現・NTT)で七年間、剣道をしていましたが、椎間板ヘルニアを患って休止。そ

の後、五十四歳の時、元剣道仲間で、すでに居合道を楽しんでいた友人から誘われ、「そっや、何かやらん」と始めたそうです。

以来十数年の修練で六段まで昇進し、その一年後に実技・筆記の両試験に合格、みごと「練士」(武道称号三階級の下位)資格を取得しました。因みに八段への昇段試験の合格率は平均七割とが。そんな難関を越えて今、「鞘引きから戻しへの流れ」などを重点に、指導に磨きをかけています。

また長きに亘って鍛錬を続けられた要因は「何よりも森先生の人間的魅力。それに稽古以



→「勝ち負けではない精神世界の魅力」を強調する林崎晴夫・練士六段^上と、「無念無想という理想の境地」をめざす草薙祥二(四段^下)

外にも「コミュニケーション」の場、合宿など楽しみ
みの場があるから」。さらに「居合道そのものの魅
力については「勝負負けではない精神世界の素
晴らしさ。そこに外国の人たちも惹かれるので
はないでしょうか」。

最後に、今後の目標はと問うと、「七十八歳で
七段に挑戦する」と。熟年の穏やかな表情に青
年の輝きが差しました。

◆ 刀拔かきめ境地へ

設計事務所経営の多忙な身でありながら、欠
かさず稽古に通い続けるのは草薙祥二さん
(八二)＝波除在住。友だちから「井天小でやつ
てあげ」と教えられ、見学に行ったらいきなり
「やつしてみるか」と誘われ、始めたそうです。

以来、「所作・礼儀など」からの鍛錬」で、
六年後の現在、四段まで昇段しましたが、「奥が
深く、やってみると奥が深い」その奥がある
と感じています。それでも「初めは何がどう患
いのかも分かりませんでしたが、段々と分かっ
てくる。それが楽しいんです」。

技術的に難しいのは六年後の今でも「姿勢の
正しき」とか。それを引き続き追求しながら、

←『水月会』では、初心者は刀の持ち方などの
所作・礼儀からマンツーマンで指導を受ける



当面の目標は「全国審査で六段までいこう」と。
そして最終的には「相手に 刀を 抜かさな
い」という究極の風格、無念無想の理想の境地に到
達したい」と顔を引き締めます。また忙しい中
で精力的に活動を継続できている要因としては
林崎さんと同じく「何よりも森先生の人間的魅力

力」、そして「合宿など」コミュニケーションと楽
しみの場があること」を挙げました。

「地域で育ってきたので地域に奉仕したい」
と仕事以外に地元で地域活動協議会の活動にも
携わる草薙さん。「居合のお陰で健康を維持で
き、地域活動にもプラスになっています」。気さ
くで明るい表情が、そこに健康的に輝きました。



以上、それぞれの生き様と個性が伝わって
る会員の声を聴いて、稽古中の心地よい緊張感
や穏やかな空気が(前号参照)が思い返され、そ
の背後にはやはり最高指導者・森会長の存在が
あったと、そして、そうした生身の人間の魅
力を通じてこそ居合道が今口まで継承されて
きたことに、改めて思いを至らされました。

無双直伝英信流『水月会』は毎月月曜の十八
時半～二十時半に市岡中学校武道場で、水曜の
十八時半～二十時半に井天小学校講堂で稽古。
見学や会費などの問い合わせは ☎ 〇九〇・三三
七八・三三六 草薙会員まで。また同会のプロ
グアドレスは「<http://suigetsuukai.blogspot.com>」。

筆家で新年きりり

三先の天満宮で恒例書き初め



→筆字で新年のスタートを切り、家族連れなど地域の人たちがふれあった「書き初め・書道展」二月二日、三先の天満宮で（同宮提供）

「書を通じて地域のふれあいを」と二月二日、

三先の天満宮（村岡康生宮司）で「書き初め・書道展」が催され、三先・池島地域を中心に多くの

人たちが参加しました。天満宮奉賛会（島尾健次会長）が呼びかける正月恒例の行事で十回目。

◆次々と力作が誕生

朝十時すぎ、社殿の大広間には三先・池島両小学校児童が昨年末の授業で書いた筆文字「四六点（三先小六年生による）希望三七点（同校四年生による）大空（八四点、池島小六年生による）希望（五四点、同校四年生による）正月（三六点）が貼り出され、爽やかな墨の匂いが立ち込める中、親子連れなどが次々と来場、座卓に用意された筆をとり、半紙に向かいました。

「年初に気分を新たに」「一年の抱負を筆で」「冬休みの宿題を」など目的は様々ですが、主役は子供たち。「姿勢を正して」「筆を立てて」などと父母や地域の人たちが助言する中、何枚も練習を重ね、「新春」「正月」「元氣」「絆」「合格祈願」などの力作が次々と誕生しました。

奉賛会の呼びかけや「ミ、毎年の本紙報道などで、初めて来たという人も多く、途中で来



場者が慌ただしく入れ替わる光景も。同宮は午後二時までの予定を二時半に延長して希望者を受け入れ、参加者は百人を超えました。

◆神則奉納され、どんど焼きに

こうして書き上げられた書の二部（八四点）は一般参拝者の「良縁」「家内安全など」と合わせて午後二時半、神前に奉納されました。右写真。同宮ではさらに、奉納作品や展示作品を、その後も社殿で継続展示した上で十五日、「どんど焼き」（松飾り・注連縄などを焼き、その火で餅を焼いて食べ、健康と幸福を祈る正月行事）にして燃やし、書道の上達などを祈願しました。恒例行事を終えた村岡宮司は「年々この伝統行事に参加される方が増え、嬉しく思っています。好評に比べ、来年からは夕刻までの時間延長を予定しています」と話していました。

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる『当地ドラマ』シリーズ第八弾は、田中在住の名もなき九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしと」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (五)

前巻まで 港区の「ブイサービス」に通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。久美子は一九二二年、六人兄弟姉妹の第一子として浪速区に生まれた。女遊びと賭け事に目がない父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが、久美子の生後間もなく解雇され、西淀川区へ引越した。その後も浮気や博打で母を苦しめながら、転居を繰り返した。

● 父の実家で廃品回収

今度の落着き先は、富田林市喜志にある父

の実家だった。その喜志尋常小学校へ転入学した三年生の久美子は、父の職業を訊かれ、「無職です」と胸を張って答えた。無職はいいことなのだ、幼い久美子は思っていたのだ。

しかし、実家に世話になりながら無為徒食といっわけにはいかず、父と久美子らは廃品回収の仕事を始めた。古新聞を入れる籠や、石鰯粉が入った木の箱などを肩引き車に積んで家々を回り、ぼろ布や古新聞紙を回収した。その量に応じ、石鰯粉を大きなしゃもじですくっては、お礼に渡した。

● 父は「弟」と喧嘩

実家に落着いて何カ月か経った頃、父の「弟」が同じ年の嫁を富田林からもらった。その「弟」は実際には父の妹の子、つまり甥だったが、父の他に男兄弟がいなかったため、実家の尊子になり、「父の弟」といつとにされていた。名前は佐太郎といい、当時一十八歳で、藤のトランクや椅子や乳母車を造る職人だった。

ある時、その佐太郎の若い嫁が久美子の妹・電子を風呂に入れてくれた。電子はその時一歳へいいで麻疹に罹っていたので、それを知

った母は炊事場から飛んできて、「なんで(麻疹)の子を(風呂)に入れるのん?」と強く言った。それを聞き付けた佐太郎が仕事場から駆け付け「お前(母のこと)、風呂へ入れることを知ってたやないか! 見てたやないか!」と母を責め、嫁を庇った。そこへちょうど父が廃品回収から戻り、血相を変えて迫った。「お前とは何や! 誰に言ってるんや!」とつとつ男一人の言い争いになり、しまいに佐太郎は「兄さん(つまり父のこと)に実家に来らわつとついい。兄さんは親戚の恥をうしや」といつつなことを口走ったので、父はひどく腹を立てた。

● 父は祖父とも喧嘩、飛び出す

結局それがもとで父は祖父(父の父親)とも喧嘩してしまった。怒った祖父は「お前みたいな人間は廃嫡(民法旧規定で推定相続人の家督相続権をなくすこと)する。出て行け!」と追い立てるように言った。祖父は長男であった父の放蕩に不安を覚え、他に男の子がいないこともあって、父の妹の子を「父の弟」として跡継ぎにすることを前から決めていたようだった。

久美子たちはその晩、夕食のあと荷物をまと

めて実家を出た。この時、「この子（弟の善道）は置いていけ。跡取りにするから」と祖父が言ったので、仕方なく善道は置いていった。このため先に実家に養女として来ていた姉・静子と共に善道も実家に引き取られることになり、結局、当時五人兄弟姉妹（静子、久美子、善道、捨五郎、寛子）のうちの三人だけが両親と行動を共にすることになったのだった。

● 椿本宅へ、やむに長屋へ

久美子たちはけろいあえず、隣村の新家にいた椿本という父の昔の友だちの家に転がり込んだ。しかし椿本夫婦には子供が三人ほどこいて、久美子たちが加わることで手狭になるのを、母は懸念した。父は「しばらく世話になったらええやないか」と言い、椿本も「しばらくおつたらええね」と引き止めてくれたが、久美子らは一晩か二晩泊った後、廢品回収で使った肩引き車に荷物を積んで、そこを出た。

落ち着いたのは、新家に近い大深という所にある長屋だった。父の母（既に亡くなっていた祖母ルスの何番目かの兄（久美子の大叔父）が椿本から久美子らのことを伝え聞き、自分の

持ち物（貸家）であるその長屋を世話してくれたのだった。

● 賭場に入り浸る父、働きに出る母

気の短い父はその後、祖父の言葉をまともに受けて、実際に実家から籍を抜いてしまった。職のなくなった父は再び博打にのめり込むようになり、大鉄の古市駅に近い野々上（現在の羽曳野市内）の榎山という賭場に入り浸った。

母は子供たちを養つため、ロート田舎の工場（ガラス容器を製造していた）の炊事場へ聘（か）い（炊事）の仕事に出た。その工場（ブリキ建てだった）は小学校の近くにあり、炊事場は久美子たちの借家の向かいにあった。給料は少なかったけれども、仕事がつ子どもにもお腹いっぱい食べさせてやれるというので、母はそこに職を定めたようだった。

● 照子の誕生と栄養不足

その時、久美子はまだ二年生くらいで、下の妹の照子が産まれて間がない頃だった。初めの子（静子）で乳を出すのを失敗していた母は、そのあと産んだ久美子らもずっとミルクで育てていたが、この時もやはり乳が出なかった。し

かし粉ミルクは高いので買えず、母はお粥を炊いて重湯をこしらえ、白砂糖を少し混ぜて飲ませた。母は久美子にも、その重湯を照子に飲ませる役目を与えたが、久美子はよく忘れてしまったのを覚えている。

その白砂糖を買いに出るのは、母の賄いの仕事がすんだ晩だった。母は捨五郎を負い、久美子は照子を乗せた藤の乳母車を押して畑中の道を歩き、大鉄の富田林駅前まで出かけるのだった（ここまで行かなければ砂糖はなかったのだ）。その時いつも母は山型の食パンを買ってくれた。久美子はそれが楽しみで、毎晩喜んで行って行ったものだった。

しかし、この時の栄養不良が響いたのだろう、照子は大きくなくても体が弱く、しかも心臓弁膜症にずっと苦しめられるようになった。母はこの妹を、他の兄弟姉妹よりよくかわいがった。当時の久美子はそれをも不満に思っていたが、今から思えば、母はこの妹の虚弱の責任を一身に感じ、不憫に思っていたのだ。その母の気持ちを知ると、久美子は今でも涙が溢れるのを抑えられなくなる。（つひ

清々しく日本の四季

あんがいおまる一座 日舞や民踊で新年飾る



→日本の四季を清々しく表現した日舞や民踊が
新年を飾ったあんがいおまる一座『清新』
一月十一日、波除のフリースペース石炭倉庫

日本の四季を清々しく表現した日舞や民踊が新年を飾りました。波除のフリースペース石炭倉庫を拠点に活動するあんがいおまる一座が一月『清新』と題した日舞・民踊・三味線・尺八の競演を披露しました。振付・構成・演出は吉津たかしさん(花柳雅素・元OSK)。出演は吉津さんと同一座と三味線つわぶき会。

第一部は民踊メドレー。座員総出演による「阿波踊り」を皮切りに「南部牛追い唄」「花笠音頭」「尾鷲節」などが続いたあと、三味線・尺八・唄・踊りのコラボで民謡「武田節」「斉太郎節」などが、三味線と尺八の演奏で長唄「松の緑」「筑摩川」などが披露され、三味線の簡単な解説も挟まれました。時に賑やかに時に勇壮・豪快に、時にユーモラスに、また時に深い哀感を漂わせての、日本各地の郷土色溢れる表現が、観客にしばしの旅行気分を味わわせてくれました。

第二部は日本舞踊。「松の翁」「打水」「菊人形」「人間五十年」など長唄・小唄の数々。祝いや四季、恋や人生などが、様子を踏まえた舞を通じて、時に艶やかに、時に荘重に、また時にコミカルに表現され、観客に日本の自然や日本人

「見事な舞姿で観客を魅了した吉津たかしさん



の心の美しさを感じさせてくれました。

全体を通じて、目付きと表情の凛々しさ、腰の据わり、ぶれのない体芯、手先・足先の滑らかさなど舞踊の基本を体現した吉津たかしさんの見事な舞い姿、その指導を受けた女性陣の柔らかさ、男性陣の迫力、つわぶき会の誠実な演奏が印象的で、それらを通して日本的ものの良さが改めて心に焼き付けられた舞台でした。



→ユーモラスな前川潔さんの「安来節」①と、あでやかな八上莉子さんの「京の四季」②

演劇ガイド

● **あんがいおまる一座『情の涙華』** 波除の

フリースペース「石炭倉庫」を拠点に庶民の優

しさや逞しき、社会的メッセージを込めた演

劇を世に問い続けるあんがいおまる一座による

花魁が主人公の人情時代劇。出演は、ゆうこ

ヨッシー原本、久木弥九蔵ほか。三味線は河野

明天。三月七日(土)十三時、十五時半、八日(日)

十三時、十五時半の四回公演。料金は前売一

千三百円、当日一千八百円。問い合わせ・申し込

みは会場の石炭倉庫(波除ハ・五・一ハ、JR

弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤

防突き当たり右すぐ。☎六五八・一〇六六四

FAX六五八・一六七〇、チケット専用フリ

ーダイヤル〇二〇・三三四・三九へ。

ライブ情報

● **八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん**

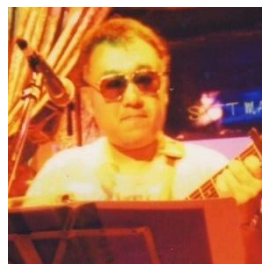
二月二十日(金)十九時から京都劇場で、二月二

十一日(土)十八時半から尼崎市総合文化センタ

ーあましんアルカイックホールで開催の所属ハ

ンドザ・クロマニヨンス」のシアターライブ「ガン

← 桐田勝治さん①とペドロさん②



ボインフェル」に出演予定。☎六三三七・四
四〇サウンドクリエイター。

● **三先のフォーク歌手・ペドロさん** 毎月第一・

三木曜各二十時からバーザ・セラー(中央区

西心斎橋一・一七・一三新スミヤビル地下、☎

六二二・六四三七)でアメリカ村フォーク

ジャンボリー」を主宰▽毎月第二火曜二十時半

からバーロージー(中央区西心斎橋一・九・

五日宝三ツ子会館地下一階、☎六二二・三九

九九)で開催のノンジャンル企画ライブにレギ

ュラー出演▽毎月第三火曜二十時から「かつお

の遊び場」(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町

センタービル一階、☎〇九〇・五八八・七〇

一五)で開催のノンジャンル企画ライブに「切

断フラグーズ」としてレギュラー出演。

● **市國元町在住の音楽ユニット「花☆キアラ」**

一月二十日(金)十九時半からあわや食堂(築港

一・八・二七、地下鉄大阪港駅から徒歩三

分、☎六五七・一・二〇七

二)で合同ライブ「あわやDEナイト」に出演

予定。ほぐほぐさん、藤田さん、愛さんら他の

ミュージシャンも参加。フリーステージあり。

参加費千円(あわや食堂特製二皿フィナー付き、

ドリンク別)☎〇九〇・二二〇・二・九五五〇

専用FAX〇六・六五八・一・五七二五Eメール

kaohanakyara@yahoo.co

o.jp http://www.ocon.

ne.jp/hana23383



→ 花☆キアラの演奏風景

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはら あなこ

杉原 麻子さん(九四) 南市岡在住 ⑦



前まで 一九二〇年香川県に生まれ、中国

での戦火拡大の中、看護学校から赤十字病院へ進んだ。二十歳で結婚し、満州の新京へ。不自由な生活を送ったが、四五年八月、ソ連参戦で北朝鮮へ疎開のあと再び新京へ。しかし我

が家は略奪され、難民収容所は地獄の光景。一方、戦地の夫は捕虜となったがシベリア送り列車から脱出し、再会を果たした。十月、酷寒の病院で長女出産。引越先で三家族の共同生活が始まり、生きるため何でもしたが、ある晩、強盗に一切を奪われ、またやり直しとなった。

中国内戦下、冬から春へ…

遂に帰国の知らせが！

時は満州の十一月。防寒具なしで外に出ることはできず、せめて主人だけでもと思っても、そんなことでお金がありません。それでも中国の貧しい人たちが着る綿入れの外套を何とか手に入れました。それは背の低い主人にはぴかぴかでした。普通なら可笑しくて吹き出すところ、貧しの中で人間までみすばらしいと思え、悲しくなったものでした。

◆ソ連の後は中国内戦

そんな中でも新しい年はやってきました。一九四六(昭和二十一年)一月中旬、ソ連部隊は関東軍の残した莫大な物資を貨車に満載して

日本兵捕虜と共に引き揚げて行きました。

そのあとへやって来たのが、蒋介石率いる中央軍と毛沢東率いる八路軍で、すぐに内戦が始まりました。流れ弾に当たらないよう、置を全部上げてガラス窓をぶさぎ、部屋から一歩も出ないようになりました。市街戦が繰り返され、銃を持った兵隊が家の周辺をうろつき、銃声が遠くや近くでパンパン聴こえました。ブロック壁を伝い、腰をかがめて走る兵隊の姿などもちらちら見え、生きた心地がしませんでした。戦局がどうなっているかも分からず、二日も早く戦争が終わってくれればと祈るばかりでした。初めは中央軍が優勢のようでした。そうして一週間ほど続いた戦闘が止まった時、それまで家の中で息をひそめていた人たちが一斉に食糧調達に出ました。山のように積まれた穀物が見える無くなつていきます。道路には馬や人間の死体がごろごろ。そんな中を、敗れた側の兵隊が数珠つなぎで連行されていきました。近くの三井百貨店がその収容所になっていたのです。そのあとには「あつた」といふので、今度は八路軍が巻き返して勝利したようでした。

◆ 窓枠燃やして暖める

そして中国内戦が続く中、収入もなく、コ
ーリヤンに事欠くこともしばしば、露店で売っ
ているチェンピン（トウモロコシの粉を水で溶
き、薄く伸ばして焼いたもの）を一枚一枚と手
に入れて飢えを凌ぐのがやっとでした。暖房用
の石炭も入らないので、無人ビルの窓枠を壊し
て薪にし、それをペチカで燃やして暖を取りま
した。その頃にはもう、家具や軍隊の毛布、靴
など、燃えるものは何でもペチカの灰と消えて
いました。「こんな状態で今年の冬まで持つだろ
うか」「それまでに帰国できなければ…」と深刻
さは深まる一方でした。

そんな中で何度も帰国の噂が流れました。
が、どれもデマばかり。真実が知りたくても、
何を信用してよいのやら、さっぱり分かりませ
んでした。

◆ 春から夏へ、毎日が闘い

一月の末に悲しい知らせが届きました。主人
が渡満以来お世話になった丸徳商店の主人
が亡くなったのです。新京銀座と呼ばれた
吉野町で大きなビルを持ち、官公庁御用達とし

←敗戦直後から大混乱が見られた満州各地



て手広く商売をして成功されていた方でしたが、
野辺送りは身内の四、五人と私の夫。死体を
大車に載せて郊外へ出、雪を掘り、その下へ
埋めただけの浅い埋葬だった。再び故国
の土を踏むこともなく、波乱に満ちた一生を異
郷の広野に閉じられたのでした。奥さんと娘さ
んが残されました。

やがて柳が芽を吹いて黄塵が舞い、暖かな春
が訪れましたが、私たちの気持ちは依然、冬の
荒野を彷徨っていました。それでも生活の糧を

得るため、危険を承知で城門（中国人街）の
近くまで野菜などを仕入れに行き、それを売り
ました。

さらに気温が上がると、露店で氷を売るよう
になりました。生きるため、やれることには何
でも手当たり次第に挑戦しました。来る日も来
る日も、本当に毎日が闘いでした。

そんな時、それまで住んでいたKさん宅が中
国軍に接収されてしまいました。仕方なく、半
年余り苦業を共にした人たちと別れ、別の住居
へ移ることになりました。そこもやはりグルー
プ生活で、今度は四家族同居でした。

◆ 帰国の噂は本音だった

七月初めごろ、「緑園地帯の難民から順に帰
国が始まった」と噂が伝わってきました。「また
デマか」。初めは半信半疑でした。が、今度の
情報はどうやら確実なようでした。そして、本
当にそれは事実でした。

待ちに待った引き揚げ！ 夢にまで見た故
国！ しかし「さあ身辺の整理を」と意気込
んでも、あるはおしめ袋一つ、それに一千千
円と決められたお金だけでした。(つづ)

繁栄商店街で豆まき

「子供の心に楽しい思い出を」



→「ガオーツ」と襲いかかる鬼にひるみながらも豆をぶつけ続ける子供たち〓一月三十一日午後、南市岡の繁栄商店街「韋駄天尊会所」前で

「子供たちの心に楽しい思い出を」。節分の日を前にした二月二十一日(土)、繁栄商店街(南市岡)で福豆まきが行なわれました。同商店街振興組合(小嶋幸造理事長の主催で四回目。

●「鬼は〜外 福は〜内」

「ガオーツ」。午後一時、真っ赤な顔にざんぱらの金髪、真っ赤な体に毛糸の腹巻をした鬼が、同商店街の休憩所「韋駄天尊会所」前へ飛び出すと、紙コップの豆を手に待ち構えていた数十人の子供らはちよつと怯んだ様子。が、司会者の「悪い鬼さんを退治しよう!」の呼びかけに「鬼は〜外、福は〜内」。鬼は小さい子を担ぎ上げたりして反撃を試みますが、大量で強烈な豆の威力に頭を覆ったり座り込んだり。「だいぶ弱って来たぞ」と司会者。アーケード外へ逃げ出し、再び現われた鬼に、再度の波状攻撃。金髪も筆り取られた鬼はとうとう「参った〜」ばんざうい。「このあと鬼からお話のティッシュユマき、次いで商店街から「褒美のお菓子プレゼント。『使命』を果たした子供らはちよつとした興奮状態で受け取っていました。

●「温かい行事ついでに」参加者

商店街のポスターなどでこのイベントを知り、子供一人(小学三年男児と幼稚園児)とその友だち二人(小学二年男児)を連れて初めて参加したという高島さん(南市岡の女性)は「古いものがなくなっていく中で、伝統的な温かい行事が続けられているのはとても良いことだと思っています。子供たちは「豆を思い切りぶつけられて楽しかった」「(鬼は)あんまり怖くなかった。仕事の途中で長男の陸真君(幼稚園年長)を連れて初めて参加した西田啓さん(三八)は「子供が心から楽しめる、とても温かい行事。これからも続けてほしいですね。陸真君は「面白かった。鬼は弱かった。来年も来たい。」

●「商店街と地域の活性化」

終了後、豆だらけの通路を掃いていた小嶋理事長や、司会を務めた近藤由加利さんは「日本の伝統行事を継承し、子供たちの心に温かな思い出を続けていきます。また、こつこつ行事を通して多くの方に商店街へ足を運んで頂き、地域の活性化にも貢献できたら嬉しいです」と話していました。なお、この日の福豆は同商店街「松友米穀店」の商品が提供されました。

文化的イベント案内

みなとカルチャ

●港図書館

①第九回みなとふれあい福祉のひろばおたのしみ会とくべつばん〜三月七日(土)。一回目は十一時半〜十二時「かたりの会とよなみ」、二回目は十四時〜十四時半「絵本の会みなと」。じゅうたんコーナーで。絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど。幼児から小学生。申込不要。先着二十名②ミニ図書展示「図書館に寄贈していただいた時代小説文庫本」展 三月三十一日(火)まで開催中。時代小説は年配者を中心に幅広い人気。③寄贈いただきました皆様、どうもありがとうございます「同館一回」④おたのしみ会 毎週水曜日の十五時半〜十八時にじゅうたんコーナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④あかちゃんのおたのしみ会 毎月第一金曜日(二月は八日)の十一時〜十一時半にじゅうたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週の「おたのしみ会」より

赤ちゃん向け。申込不要⑤図書展示「大阪を舞台にした小説一展」二月二十八日(土)まで開催中。江戸時代から平成まで、それぞれの時代に描かれた小説を展示▽▽八五七六・一三四六。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第六三回定期演奏会」

「神の光への憧れ」飯守のブルックナー「5」と題し、同楽団桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さんの指揮で、①メンデルスゾーンヴァイオリン協奏曲 木短調 作品64②ブルックナー交響曲第5番 変ロ長調(飯守泰次郎&関西フィル、ブルックナー交響曲全曲ツィクルス第五回)を演奏。ヴァイオリン独奏は



→指揮を担当する関西フィル桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さん⑥武藤章⑦と、ヴァイオリン独奏を担当する清永あやさん⑧

→指揮を担当する関西フィル桂冠名誉指揮者・飯守泰次郎さん⑥武藤章⑦と、ヴァイオリン独奏を担当する清永あやさん⑧

きよなが 清永あやさん。清永さんは神戸出身。工藤十博

小栗まち絵、宗倫匡、ジェルジ・パウク、玉井菜保、川田知子に師事。ロームミュージックファンデーション奨学金を受け、英国王立音楽院で学ぶ。相愛大学音楽部首席卒業。在学中、明治安田生命より奨学金を受ける。現在、東京藝術大学大学院修士課程に在籍。三月十四日(土)十四時からザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島駅」から北へ徒歩約七分)で。S席八千円、A席四千五百円、B席三千円、C席千円、学生席(二十五歳以下)千円。全席指定・消費税込。八五七七・一三八一。

●弁天町ORCC200生涯学習センター「アートパージュ」一日体験

花の絵を切って貼り、絵の具でぼかして自分だけのめがねケースを作る。三月十三日(金)十〜十一時。講師は西村美弥子さん(大阪市生涯学習インストラクター)。定員十五名(先着順)。受講料千円、教材費五百円。持ち物は、はさみ、おしぼりタオル。八五七七・一四二〇。

●弁天町ORCC200生涯学習センター「きめこみ手芸」一日体験

初心者にも簡単に作れて

プレゼントにも最適。二月十九日(木)十時。講師は本根寛美さん。定員二十名(先着順)。受講料千円、教材費八百円(マグネット二個一組)。持ち物は、はさみ、(あれば)目打ち。〇六五七七・一四二〇。

● 井天町ORC200生涯学習センター・井天シネマ倶楽部『モロッコ』

「心に残る名作映画を低料金で多くの市民にとどめ、井天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第五回、通算第三十八回。―北アフリカ・モロッコを訪れた外人部隊の兵士トム・ブラウン。行軍する先々で女性を口説く彼は、いつしか上官の妻とも懇意(こんい)な仲となる。時を同じ



→ 井天シネマ倶楽部『モロッコ』からゲイリー・クーパーとマレーネ・ディートリッヒ

くして、モロッコの酒場にアミー・ジョリーという故郷を捨てた美しい歌手が流れ着く。トムは一目で彼女に心を奪われ、アミーもまた彼に惹かれるが、上官の妻との関係が露見し、トムは最前線へ送られること。別れの前日、アミーが大富豪ヘシエルに求婚されたこと知り、彼女のために身を引く決意をするが。アカデミー賞四部門(監督・女優・美術・撮影)にノミネートされた傑作。監督はジョセフ・フォン・スタンバーグ。出演はゲイリー・クーパー、マレーネ・ディートリッヒ他。一九三〇年、アメリカ、モロッコ、九分。三月十四日(土)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。〇六五七七・一四二〇。

● 井天町ORC200生涯学習センター「春のセンターまつり」

同センター登録の生涯学習グループが日頃の活動の成果を作品展示や舞台発表で披露する恒例イベント。三月五日(木)十五時(日)の九時半―二十一時(日曜・祝日は十六時まで)。作品展示(写真・絵画など)は教室は期間中開催。舞台発表(フランス・朗読など)は二十教室。は八日(日)十一時―十六時。昼〆〆〆

ビーライブ(リコーダー)尺八など七教室あり。一身体験教室(フランス・中国語会話など)二十七教室は十四日(土)まで毎日色々。詳細は要問い合わせ。〇六五七七・一四二〇。

● ねじやらしのシャンテ☆カフェ

懐かしい歌に老いも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・一〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。歌集貸与。参加費千円税込。第十回は三月二十八日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(井天四・一・一・一・三〇二) 〇六五五八・六八八、http://necojyarasijimdo.com/または「ゆずりはの会」(〇六五七二



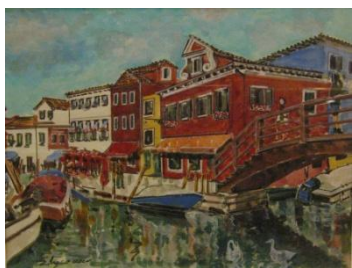
→ 過去のねじやらしのシャンテ☆カフェから

一六八四(三)まで。

●ぎやらりー&かふえ風庵・上江洲茂夫・有子

陶芸・絵画展」デザイナーから作画・作陶に挑戦し、「飾る楽しさを形に」「自然の美を求めて」と大正区で陶芸絵画教室「アトリエウエス」を営む上江洲茂夫・有子夫妻が、イタリアの風景などを題材に陶芸作品(信楽粘土・萩粘土など)を使用した飾り物・食器などや絵画作品(水彩・アクリル・墨筆など)による風景画・静物などを展示。二月十八日(土)まで開催中。二月は「柳橋孝子プリザードフワール展」を予定。「風庵」は南

市岡三・二・一〇(繁栄商店街内)、八四九八五・五九八一、十時〜十八時開館(日曜定休)。



→風庵「上江洲茂夫・有子 陶芸・絵画展」からイタリアを題材にした絵画作品①と陶芸作品②

←過去の市岡寄席(上は昨年二月、下は同六月



●市岡寄席

市岡住民が運営する地域寄席の

六回目。みんなで応援活用 市岡の地域人材！」を謳い文句に市岡在住の落語家・桂福丸さん

(桂春団治二門)の落語一席(「寝床」など)

を楽しむ。二月二十一日(土)十四時から紫雲山

西明寺(市岡二・一・四)で。先着八十名。菓子付き。豪華景品が当たる抽選会あり。車イス

でも入場OK。ケーブルテレビ11チャンネル

「地元ニュース」中継・収録あり。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会(市岡地域活動協議会広報部会、市岡連合振

興町会、紫雲山西明寺、繁栄商店街振興組合など市岡にゆかりの諸団体や個人から成る)。桂福

丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語落語でアメ

リカ公演も。二〇〇七年 月桂福団治に入門。

名付け親は作家の故・藤本義一氏。天満天神繁昌亭出演中。TV番組(二ニューススクランブル)「クワイバハラエティークさま」などやラジオ番組(二月七日から毎週土曜十四時半〜十五時に弁天町のラジオ大阪「言葉のことバカリ」にレギュラー)にも出演。著書に『怒られ力』(明治書院)。八五七一・五八・六西明寺。

●ガットネロ

市岡在住の社会派シャンソン歌

手松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」HAMORRI・BE(はもりべ)のうた★カフェ「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽天王寺区上本町八・二・三七、地下鉄谷町九丁白駅①出口、八六七七・〇〇二。



→ガットネロを主宰する松浦由美子さん①と「うた☆カフェ」出演のHAMORRI・BE②

ひとくちPR

(二行＝税込二〇〇〇円)

● **新しい学びの世界へ！** チーム学習によつて全員ができるをめざす画期的な学習スタイル。小1〜高3。月謝は週一回で実質八千円。NPOが運営。問合せはメールで「学び合ひスクール 繁栄商店街」(info.ubiquitous.adv@gmail.com)へ。

● **いっぽうで学習でちやもが変わる！** 右脳活性見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友綜合教室 **検索** (夕凧111三十七三津神社西側 八五七一・六八七七)。

● **放課後・春・夏・秋は児童保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇二三四(西原)か 八五七一・六八四三あおぞら学童。● **介護のようばお任せ** ①介護や老いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送迎付きで入浴・食事・手芸・ゲーム・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操おやつなどを楽しめます④訪問介護は買物・掃除・

洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと合同ケアセンター(南市岡二・六・二六、八五八二・四八八〇、FAX八五八三・二二二二)。

● **何でも書きます、まとめてます** 手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案。自分史・夫婦史・社史・団体史などの聞き書き。新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集。八五七一・四六三六 港新聞・飯田編集事務所。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** わた 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円。理想のまくらづくり、フライダルふとん選びもお任せ。お手入れアドバイス・無料診断実施中。ふとん館ひらのや(南市岡二・二・一八 繁栄商店街東入口フ

リーダイヤル〇二二〇・四二四九・五五)。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミント (八幡屋114・八、入舟公園前、大阪信金横、十〜十八時営業、日月定休)。

● **レンタルフリーボックス** 一カ月二〇〇〜一八〇〇円。鍵付きガラスケース。棚上陳列スペース、ハンガー、足元置きカゴなどの月極レ

ンタルも。コスメハウスナナイロ(南市岡二・二・九 繁栄商店街内、八五八六・二九五)。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小中高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。月会費八千円(無期限十枚づつ)のチケット八千円。入会金二万円を口金半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジム(三先111三一九 http://ameblo.jp/minatogym/)

● **ピアノはじめませんか** 大きい人も小さい人も初歩から楽しくレッスン。八五七四・三四三 東條和恵(磯路110・11)。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第二六三回定期演奏会」** (みなとカルチャー) 招待券をへア一組に。

● **井田シネマ倶楽部『モロロ』** (みなとカルチャー) 招待券をへア一組に。

● **あながいおまる一座『情の涙華』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に。